

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年6月27日

【事業年度】 第180期（自平成23年4月1日至平成24年3月31日）

【会社名】 株式会社リーガルコーポレーション

【英訳名】 REGAL CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 岩崎 幸次郎

【本店の所在の場所】 千葉県浦安市日の出二丁目1番8号

【電話番号】 047 - 304 - 7050（代表）

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長 亀田 元之

【最寄りの連絡場所】 千葉県浦安市日の出二丁目1番8号

【電話番号】 047 - 304 - 7050（代表）

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長 亀田 元之

【縦覧に供する場所】 株式会社リーガルコーポレーション大阪支店
(大阪市浪速区敷津東二丁目6番14号)

株式会社大阪証券取引所
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第176期	第177期	第178期	第179期	第180期
決算年月	平成20年 3月	平成21年 3月	平成22年 3月	平成23年 3月	平成24年 3月
売上高 (百万円)	39,026	37,447	35,322	33,114	35,171
経常利益 (百万円)	1,095	176	130	1,042	2,722
当期純利益又は 当期純損失() (百万円)	614	35	552	439	1,951
包括利益 (百万円)				409	2,406
純資産額 (百万円)	8,197	7,637	7,045	7,464	9,873
総資産額 (百万円)	31,669	31,279	31,410	28,458	29,772
1株当たり純資産額 (円)	269.63	254.58	234.16	247.68	328.01
1株当たり 当期純利益金額又は 当期純損失金額() (円)	20.13	1.19	18.52	14.71	65.28
潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益金額 (円)				14.68	65.04
自己資本比率 (%)	25.8	24.3	22.2	26.0	32.9
自己資本利益率 (%)	7.4	0.5	7.6	6.1	22.7
株価収益率 (倍)	9.9	122.7	7.1	8.7	3.9
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,008	289	463	1,639	1,916
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,526	607	443	832	1,454
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	598	1,294	2,036	2,485	1,515
現金及び現金同等物 の期末残高 (百万円)	1,792	2,183	3,310	1,612	3,465
従業員数 〔ほか、平均臨時 雇用人員〕 (名)	1,013 〔731〕	1,157 〔888〕	1,158 〔832〕	1,134 〔887〕	1,055 〔988〕

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 第176期及び第177期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、第178期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在しますが1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次		第176期	第177期	第178期	第179期	第180期
決算年月		平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
売上高	(百万円)	34,891	33,806	31,931	30,209	31,976
経常利益又は 経常損失()	(百万円)	1,009	824	34	719	2,084
当期純利益又は 当期純損失()	(百万円)	515	80	1,298	61	1,548
資本金	(百万円)	5,355	5,355	5,355	5,355	5,355
発行済株式総数	(株)	32,500,000	32,500,000	32,500,000	32,500,000	32,500,000
純資産額	(百万円)	8,018	7,576	6,221	6,303	8,116
総資産額	(百万円)	28,847	28,692	28,346	25,032	25,390
1株当たり純資産額	(円)	249.60	239.77	196.61	198.91	256.00
1株当たり配当額 (1株当たり中間配当額)	(円) (円)	5.00 ()	()	()	()	3.00 ()
1株当たり 当期純利益金額又は 当期純損失金額()	(円)	15.98	2.51	41.10	1.94	48.96
潜在株式調整後1株当 たり当期純利益金額	(円)				1.94	48.79
自己資本比率	(%)	27.8	26.4	21.9	25.1	31.9
自己資本利益率	(%)	6.4	1.0	18.8	1.0	21.5
株価収益率	(倍)	12.5	58.2	3.2	66.0	5.2
配当性向	(%)	31.3				6.1
従業員数 〔ほか、平均臨時 雇用者数〕	(名)	232 [63]	244 [102]	285 [88]	247 [64]	241 [71]

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 第176期及び第177期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、第178期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在しますが1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

2 【沿革】

- 明治35年1月 合名会社大倉組、合資会社桜組、福島合名会社及び東京製皮合資会社の各製靴部門を統合、各種靴の製造、販売を目的とし、東京市京橋区鑓屋町（現、東京都中央区銀座）に日本製靴株式会社を設立。
- 明治36年2月 本店を東京府南足立郡千住町中組（現、東京都足立区千住橋戸町）に移転。同地に本社工場を新設し、同年5月軍靴の生産を開始。
- 昭和20年10月 終戦により民需靴に全面転換、主としてグッドイヤー・ウェルト式製法による紳士靴の生産、販売を開始。
- 昭和33年8月 わが国で初めてダイレクト・バルカナイズング（直接加硫圧着）式製法を導入。昭和35年より同製法による官公庁向けの革靴並びに安全作業靴の生産、販売を開始。
- 昭和36年11月 アメリカのブラウン社とリーガル・シューに係る技術導入契約締結。「リーガル」ブランドの紳士靴の生産、販売を開始。
- 昭和42年8月 地区別販売会社を福岡市に設立。（その後順次、札幌市、名古屋市、仙台市に地区別販売会社を設立。）
- 昭和42年10月 自社ブランド婦人靴の生産、販売を開始、婦人靴へ本格的進出。
- 昭和43年11月 地区別販売会社として大阪市に近畿日本シューズ株式会社（現、株式会社フィット近畿日本・連結子会社）を設立。
- 昭和44年2月 地区別販売会社として東京都に東日本シューズ株式会社（現、株式会社フィット東日本・連結子会社）を設立。
- 昭和44年12月 生産会社として米沢製靴株式会社（現、連結子会社）を設立。その後順次、岩手製靴株式会社（現、連結子会社）及び岩手シューズ株式会社（現、連結子会社）を設立。
- 昭和45年10月 直営小売店「リーガルシューズ」第1号店を東京駅八重洲口に出店。
- 昭和47年1月 「リーガル」ブランドの婦人靴の生産、販売を開始。
- 昭和47年12月 小売会社として株式会社ニッカ（現、連結子会社）を設立。
- 昭和48年9月 「リーガルシューズ」のフランチャイズチェーン事業を開始。
- 昭和50年3月 「リーガル」ブランドのスニーカーの生産、販売を開始。
- 昭和50年8月 東京都新宿区市ヶ谷に本社事務所を新設、本社機能を移管。
- 昭和56年1月 靴修理の専門会社として株式会社ニッカエンタープライズ（現、連結子会社）を設立。
- 昭和61年7月 自社ブランド紳士靴「ケンフォード」の生産、販売を開始。
- 昭和62年4月 百貨店担当販売会社として株式会社タップス（現、連結子会社）を設立。
- 昭和63年11月 タイのインターナショナル・レザー・ファッション・コーポレーション・リミテッドと許諾商標「リーガル」ブランドのサブライセンス契約と技術援助（供与）契約を締結。
- 平成2年4月 アメリカのブラウン社より「リーガル」の商標権を取得。
- 平成2年10月 商号を株式会社リーガルコーポレーションに変更。
- 平成2年12月 日本証券業協会に株式を店頭登録。
- 平成9年7月 自社ブランド婦人靴「キャリーフォーズ」の生産、販売を開始。
- 平成12年3月 生産会社のチヨダシューズ株式会社（現、連結子会社）を子会社とする。
- 平成13年9月 本社工場（東京工場）の閉鎖。
- 平成14年5月 本社事務所及び在京販売会社事務所を東京都足立区千住橋戸町に移転。
- 平成16年12月 ジャスダック証券取引所に株式を上場。
- 平成17年7月 中国上海市に伊藤忠商事グループとの合弁会社、上海麗格鞋業有限公司を設立。
- 平成17年9月 「リーガル」ブランドの海外1号店を中国上海市に出店。
- 平成18年9月 婦人靴ブランドの「ナチュラルライザー」直営小売店第1号店を出店。
- 平成18年10月 香港に海外調達の拠点として、香港麗格靴業有限公司を設立。
- 平成19年3月 事業再編による販売会社統合のため、地区別販売会社5社を解散。
- 平成19年10月 本社移転用土地を千葉県浦安市に取得。
- 平成20年4月 中国江蘇省に海外生産拠点として、蘇州麗格皮革製品有限公司を設立。
- 平成21年3月 東京都足立区千住橋戸町の本社用地を株式会社ニッピ（現、持分法適用の関連会社）に売却。
- 平成22年4月 ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所JASDAQ市場（現、大阪証券取引所JASDAQ（スタンダード））に株式を上場。
- 平成22年8月 本社事務所及び在京販売会社事務所を千葉県浦安市に移転。

3 【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社、連結子会社18社及び関連会社5社（うち1社はその他の関係会社）で構成され、その主要な事業は靴の製造及び販売であります。

当社及び当社の関係会社の事業における当社及び関係会社の位置付け及びセグメントとの関連は次のとおりであります。なお、「その他」は報告セグメントに含まれておりません。

靴小売事業

主に直営店における靴関連の小売販売をしております。

(主な関係会社) 当社、(株)ニッカ、東北リーガルシューズ(株)、(株)オンディーヌ、上海麗格鞋業有限公司

靴卸売事業

主に各種靴の専門店および百貨店等への靴関連の卸売販売をしております。

(主な関係会社) 当社、(株)フィット東日本、(株)フィット近畿日本、(株)タップス

その他

生産事業

主に各種靴の製造、修理および材料の加工、販売等を行っております。

(主な関係会社) 当社、チヨダシューズ(株)、岩手製靴(株)、岩手シューズ(株)、米沢製靴(株)、(株)田山製甲所、(株)ニッカエンタープライズ、蘇州麗格皮革製品有限公司、加茂製靴(株)、日本製靴(株)、東立製靴(株)、(株)ボーク、(株)ニッピ、山田護謨(株)

その他の事業

調査・研究開発や商品調達などの事業を行っております。

(主な関係会社) 当社、(株)日本靴科学研究所、香港麗格靴業有限公司、大鳳商事(株)

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 又は出資金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 (又は被所有)割合		関係内容
				所有割合 (%)	被所有割合 (%)	
(連結子会社)						
㈱フィット東日本	千葉県浦安市	40	靴卸売事業	100.0		当社商品を卸売、土地建物他 を賃貸、役員の兼任1名等
㈱フィット近畿日本	"	20	"	100.0		当社商品を卸売、土地建物他 を賃貸、役員の兼任1名等
㈱タップス	"	20	"	100.0		当社商品を卸売、土地建物他 を賃貸、役員の兼任1名等
岩手製靴㈱	"	10	その他	100.0		当社製品の製造、資金借入、土 地建物他を賃貸、役員の兼任 1名等
岩手シューズ㈱	"	10	"	100.0		当社製品の製造、土地建物他 を賃貸、役員の兼任1名等
米沢製靴㈱	"	10	"	100.0		当社製品の製造、資金援助、土 地建物他を賃貸、役員の兼任 1名等
チヨダシューズ㈱	"	10	"	100.0		当社製品の製造、資金援助、機 械装置他を賃貸、役員の兼任 1名等
㈱ニッカ (注) 2	"	40	靴小売事業	100.0		当社商品の小売、資金援助、土 地建物他を賃貸、役員の兼任 2名等
東北リーガルシューズ㈱	"	10	"	100.0		当社商品の小売、資金援助、土 地建物他を賃貸、役員の兼任 2名等
㈱オンディーヌ (注) 6	"	10	"	100.0		当社商品の小売、資金援助、土 地建物他を賃貸、役員の兼任 1名等
㈱ニッカエンタープライズ	"	10	その他	100.0		当社商品の修理、機械装置他 を賃貸、資金援助、役員の兼任 1名等
上海麗格鞋業有限公司 (注) 5	中国上海市	460	靴小売事業	93.5		当社商品の小売、役員の兼任 1名等
香港麗格靴業有限公司	香港九龍	65	その他	100.0		当社商品の調達、当社商品の 小売、役員の兼任1名等
蘇州麗格皮革製品 有限公司 (注) 5	中国江蘇省 太倉市	100	"	70.0		当社製品の製造、役員の兼任 1名等
その他4社						
(持分法適用関連会社)						
㈱ニッピ (注) 3, 4	東京都足立区	3,500	その他	23.5	23.0 (1.2)	当社に商品を販売、役員の 兼任4名等
東立製靴㈱	千葉県柏市	10	"	33.0		当社商品の製造、材料販売 役員の兼任1名等
㈱ボーグ	千葉県松戸市	35	"	39.0		当社商品の製造、 役員の兼任2名等
その他2社						

(注) 1 「主要な事業の内容」欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。

2 特定子会社であり、債務超過会社であります。平成24年3月31日現在における債務超過の額は、1,155百万円
であります。

また、売上高（連結会社相互間の内部売上高を除く）の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報 売上高 9,121百万円

経常利益 265百万円

当期純利益 160百万円

純資産額 1,155百万円

総資産額 3,605百万円

3 その他の関係会社であり、有価証券報告書の提出会社であります。

4 「議決権の所有（又は被所有）割合」欄の（外書）は間接所有であります。

5 上海麗格鞋業有限公司及び蘇州麗格皮革製品有限公司の所有割合は、提出会社の出資比率であります。

6 平成24年2月29日をもって解散し、現在清算中であります。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成24年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
靴小売事業	286 (461)
靴卸売事業	215 (375)
その他	385 (129)
全社(共通)	169 (23)
合計	1,055 (988)

- (注) 1 従業員数は、当社グループから当社グループ外への出向者を除いた就業人員数であります。
 2 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。
 3 臨時従業員には、パートタイマー及び契約社員を含み、派遣社員を除いております。
 4 全社(共通)は、人事総務及び経理等の管理部門の従業員であります。

(2) 提出会社の状況

平成24年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
241 (71)	45.5	22.6	6,023

セグメントの名称	従業員数(名)
靴小売事業	40 (41)
靴卸売事業	32 (7)
全社(共通)	169 (23)
合計	241 (71)

- (注) 1 従業員数は、当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む就業人員数であります。
 2 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。
 3 臨時従業員には、パートタイマー及び契約社員を含み、派遣社員を除いております。
 4 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
 5 全社(共通)は、人事総務及び経理等の管理部門の従業員であります。

(3) 労働組合の状況

当社グループには、平成24年3月31日現在、リーガル系労働組合総連合(上部団体なし、組合員172名)、REGALニッカ労働組合(上部団体なし、組合員205名)及びUIゼンセン同盟リーガル労働組合(組合員310名)が組織されております。

なお、労使関係については円滑な関係にあり、特記すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災の影響により、企業の生産活動や個人消費に影響があったものの、その後のサプライチェーンの立て直しや各種政策の効果などを背景に景気は持ち直しつつあります。しかしながら原子力災害の影響や欧州の金融不安、原油価格の上昇による海外景気の下振れ懸念に加え、デフレの影響や雇用情勢の悪化懸念が依然として残っており、先行きが読めない状況となっております。

当靴業界におきましても、異業種を交えた競争の激化、震災後は機能性、実需性が注目されるなど消費者の購買動向にも大きな変化が生じたものの、東北地方を中心に復興需要もあり、個人消費に持ち直しの兆しが見られるようになってきました。

このような環境のなか、当社グループは、ブランド特性に応じた販売チャネル別の営業体制の下で、店頭売上を重視した営業活動、リーガルブランド日本上陸50周年を記念する施策など様々なブランド施策ならびに販促施策やカジュアル・コンフォート商品の開発強化などに注力するとともに、販売管理費などのコスト削減に取り組んでまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は 35,171百万円（前年同期比 6.2%増）、営業利益は 2,433百万円（前年同期比 108.7%増）、経常利益は 2,722百万円（前年同期比 161.1%増）、当期純利益は 1,951百万円（前年同期比 344.2%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

靴小売事業

靴小売事業では、店舗業態ごとの需要期における販促企画や主要全国紙を利用した新聞広告の実施、また、カジュアル・コンフォート商品の品揃えを充実させるなどの各種施策により売上の拡大に努めました。

ブランド・業態別では、「リーガルシューズ店」、「ナチュラルライザーショップ」、「シューズストリート（ネット販売）」、および「アウトレット店」が売上を伸ばすなど、総じて好調に推移いたしました。また、店舗施策では、「リーガルシューズヨドバシ梅田店」（大阪市）など12店舗を新規出店するとともに、不採算店舗7店舗を閉店するなど、店舗運営の効率化を図りました。（直営小売店の店舗数132店舗 前年同期末比 5店舗増）

この結果、当連結会計年度の売上高は 17,060百万円（前年同期比 9.0%増）、セグメント利益（営業利益）は 1,238百万円（前年同期比 155.0%増）となりました。

靴卸売事業

靴卸売事業では、リーガルブランド日本上陸50周年を記念した様々な企画商品の発売やカジュアル・コンフォート商品の開発強化、およびブランド訴求に重点を置いた販促企画などの施策により、ブランド力強化を図るとともに売上の拡大に努めました。また、アパレル企業等とのコラボレーション企画など新たな施策にも取り組みました。

紳士靴は、ここ数年厳しかったビジネスシューズの売上にも下げ止まりが見られ、商品開発強化に注力したカジュアル・コンフォート商品は年間を通して好調に推移いたしました。

婦人靴は、近時のファッショントレンドがトラッド基調になり商品政策とマッチしたことや震災以降パンプスの需要が年間を通して高かったことなどの要因に加え、履き心地を重視した「リーガルウォーカー」を新規投入するなどの施策により好調に推移いたしました。

この結果、当連結会計年度の売上高は、17,912百万円（前年同期比 3.5%増）、セグメント利益（営業利益）は 1,119百万円（前年同期比 53.6%増）となりました。

その他

報告セグメントに含まれない不動産賃貸料の収入など、その他事業の当連結会計年度の売上高は、356百万円（前年同期比 6.5%増）、セグメント利益（営業利益）は88百万円（前連結会計年度 セグメント損失（営業損失）135百万円）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度のキャッシュ・フローについては、営業活動により1,916百万円、投資活動により1,454百万円、それぞれ増加し、財務活動により1,515百万円、現金及び現金同等物に係る換算差額により1百万円、それぞれ減少しました。この結果、現金及び現金同等物は1,853百万円の増加となり、期末残高は3,465百万円（前年同期比115.0%増）となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、1,916百万円の収入（前連結会計年度は 1,639百万円の収入）となりました。

主な要因としては、売上債権の増加額が 798百万円ありましたが、税金等調整前当期純利益2,489百万円、減価償却費 349百万円を計上したことなどによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、1,454百万円の収入（前連結会計年度は 832百万円の支出）となりました。

主な要因としては、差入保証金の回収による収入 1,575百万円などによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、1,515百万円の支出（前連結会計年度は 2,485百万円の支出）となりました。

主な要因としては、長期借入れによる収入が 500百万円ありましたが、短期借入金の純減少額970百万円や長期借入金の返済による支出 1,024百万円などによるものであります。

2 【生産、商品仕入、受注及び販売の状況】

当社グループでは、生産実績及び商品仕入実績については、セグメント別に把握することが困難であるため、扱い品目の合計額を記載しております。

(1) 生産実績

品目	生産高(百万円)	前年同期比(%)
紳士靴・婦人靴	8,820	+10.1

- (注) 1 金額は、卸売価格によっております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 商品仕入実績

品目	商品仕入高(百万円)	前年同期比(%)
紳士靴・婦人靴	13,463	+2.9

- (注) 1 金額は、仕入金額によっております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 受注実績

当社グループは、見込生産を主としており、受注高及び受注残高に重要性がないため、記載しておりません。

(4) 販売実績

セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同期比(%)
靴小売事業	17,060	+9.0
靴卸売事業	17,912	+3.5
その他	198	+34.7
合計	35,171	+6.2

- (注) 1 「その他」の販売高は、セグメント間の内部売上高又は振替高を除いております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

当社グループを取り巻く事業環境は依然として厳しい状況が続くものと予想されます。このような状況下におきまして、当社グループは、以下の課題に取り組んでまいります。

(1) ブランド価値の向上

ブランドごとのコンセプトやターゲットを明確にし、ブランド価値の向上を図ってまいります。主力である「リーガル」は、「信頼・信用」の代表ブランドとして広く認知されるために、競争力と付加価値の高い商品を開発・提案してまいります。

(2) 店頭売上を重視した営業活動

得意先に対してパートナーの立場をとり、得意先の抱える問題に対する方策を共に考える、提案型の営業活動を続けてまいります。

(3) お客様を重視した小売事業の強化

お客様に喜びや感動を体験していただける靴小売業を目指してまいります。お客様のニーズの変化に適切かつ迅速に対応できるよう、組織力の強化と人材の育成を図り、新たなコンセプトの商品や店舗を提案してまいります。

(4) 品質の向上

品質を重視した靴作りでお客様に安全と安心を提供します。さらに品質の向上を図るため、国内外の生産子会社や協力メーカーに技術者を派遣するとともに、材料から製品までの検査体制を構築し、調達のグローバル化を推進してまいります。

(5) 販売・製造技術の伝承

お客様にご満足いただける優秀なスタッフの育成を推進してまいります。

販売部門では、当社独自の教育機関であるREGAL COLLEGEにおいて研修を行ってまいります。生産部門では、熟練者が技術指導を行い、後継者の育成や技術の伝承に努めてまいります。

(6) 会社の支配に関する基本方針

会社法施行規則第118条第3号に定める「株式会社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針」（以下「会社の支配に関する基本方針」といいます。）の内容は以下のとおりであります。

会社の支配に関する基本方針

当社は、当社の財務および事業の方針の決定を支配する者は、当社の経営理念をはじめ当社の財務基盤や事業内容等の企業価値のさまざまな源泉、当社を支えるステークホルダーとの信頼関係を十分に理解し、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を中長期的に確保・向上させる者でなければならないと考えております。

一方、金融商品取引所に上場する株式会社としての当社の株主の在り方は、市場での自由な取引を通じて決まるものであり、当社の支配権の移転を伴う買収行為がなされた場合に、これに応じるか否かの判断も最終的には株主の皆さまの意思に基づき行われるべきものと考えております。

しかしながら、株式の大量買付行為や買付提案の中には、その目的等から見て企業価値ひいては株主共同の利益に対して明白な侵害をもたらすおそれのあるもの、株主に株式の売却を事実上強要するおそれのあるもの、対象会社の株主や取締役会が買付行為や買付提案の内容等について検討し、あるいは対象会社の取締役会が代替案を提示するために合理的に必要十分な時間や情報を提供することのないもの、買付条件等が対象会社の企業価値ひいては株主共同の利益に照らして著しく不十分又は不相当であるもの、対象会社の企業価値の維持・増大に必要不可欠なステークホルダーとの関係を破壊する意図のあるもの等、対象会社の企業価値ひいては株主共同の利益に資さないものも少なくありません。

当社は、上記の例を含め当社の企業価値ひいては株主共同の利益を毀損するおそれのある大量買付等を行う者は、例外的に当社の財務および事業の方針の決定を支配する者として不適切と考えております。

会社の支配に関する基本方針の実現に資する取組み

当社は「靴を通して、お客さまに、足元から美と健康を提供する」という事業ミッションを掲げ、

- a. 私たちは、お客さま第一にマーケット志向で行動する顧客創造企業を目指します。
- b. 品質重視に徹した靴作りとサービスで、お客さまに安全と安心と満足を提供します。
- c. コンプライアンスの徹底と、事業を通じての人材の育成に努め、社会の皆さまから高い信頼を得る企業を目指します。

という企業理念で経営に取組み、企業価値の向上を図るとともに、社会と経済の発展にも貢献することを経営の基本としております。

当社は、1902年（明治35年）の創業以来、一貫して靴の企画・製造・販売に従事しております。靴を履物であると同時に文化・生活の創造の原動力のひとつととらえ、新しい価値の提案をし、提供することで事業の発展を図ってまいりました。

今後も当社の長い歴史の中で培われた高度な技術に磨きをかけ、新たな付加価値を追求してまいります。マーケット志向でお客さまに新しい価値を提供し続けるために、小売事業を通してそのシナジー効果を卸売事業、製造・調達事業に活かしてまいります。また、調達のグローバル化への対応、人材の育成、財務体質強化等による経営基盤の強化も図ってまいります。

当社は企業価値を継続的に向上させていくために、透明で公正な経営を行うことを目指しております。このため、株主、投資家の皆さまをはじめとするすべてのステークホルダーに対して経営の透明性を高め、コーポレート・ガバナンスを有効に機能させるため、経営環境の変化に迅速かつ柔軟に対応できる組織体制を構築し、維持することを重要な施策としております。取締役の経営責任をより明確にするため、任期を1年とするとともに、業務執行機関の監督・監査機能を強化するため、社外取締役1名、社外監査役2名を選任しております。

また、監査役による取締役会への出席や業務状況の調査などを通じ、取締役会の職務執行を十分監視できる体制となっております。

会社の支配に関する基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務および事業の方針の決定が支配されることを防止する取組みの概要

当社は会社の支配に関する基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務および事業の方針の決定が支配されることを防止する取組みとして「当社株式の大量買付行為への対応策」(以下「本プラン」といいます。)を導入しております。

その概要は以下のとおりであります。

a. 本プラン導入の目的

本プランは、会社の支配に関する基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務および事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組みとして導入するものです。

b. 本プランの対象となる当社株式の買付

本プランの対象となる当社株式の買付行為とは、特定株主グループの議決権割合を20%以上とすることを目的とする当社株券等の買付行為、または結果として特定株主グループの議決権割合が20%以上となる当社株券等の買付行為をいい、かかる買付行為を行う者を大量買付者といいます。

c. 特別委員会の設置

本プランを適正に運用し、取締役会によって恣意的な判断がなされることを防止し、その判断の客観性・合理性を担保するため、特別委員会規程に基づき、特別委員会を設置いたします。特別委員会の委員は3名以上とし、公正で中立的な判断を可能とするため、当社の業務執行から独立している社外取締役、社外監査役または社外有識者のいずれかに該当する者の中から選任します。

d. 大量買付ルールの概要

() 大量買付者による意向表明書の当社への事前提出および必要情報の提供

大量買付者が大量買付行為を行おうとする場合には、大量買付行為または大量買付行為の提案に先立ち、まず、大量買付ルールに従う旨の誓約を含む大量買付の内容等を日本語で記載した意向表明書を、当社の定める書式により当社取締役会に提出していただきます。当社取締役会は、意向表明書を受領した日の翌日から起算して10営業日以内に、大量買付者に対して大量買付行為に関する情報(以下「必要情報」といいます。)のリスト(以下「必要情報リスト」といいます。)を記載した書面を交付します。そして大量買付者には、必要情報リストの記載に従い、必要情報を当社取締役会に書面にて提出していただきます。

() 当社取締役会による必要情報の評価・検討等

当社取締役会は、大量買付行為の評価等の難易度に応じ、大量買付者が当社取締役会に対し必要情報の提供を完了した後、対価を現金(円価)のみとする公開買付けによる当社全株式の買付けの場合は最長60日間、その他の大量買付行為の場合は最長90日間を当社取締役会による評価、検討、交渉、意見形成、代替案立案のための期間として設定し、提供された必要情報を十分に評価・検討し、特別委員会からの勧告を最大限尊重した上で、当社取締役会として意見を慎重にとりまとめ、公表いたします。

e. 大量買付行為が実施された場合の対応方針

() 大量買付者が大量買付ルールを遵守しなかった場合

大量買付者が大量買付ルールを遵守しなかった場合には、具体的な買付方法の如何にかかわらず、当社取締役会は、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を守ることを目的として、新株予約権の無償割当等、会社法その他の法律および当社定款が認める対抗措置を講じることにより大量買付行為に対抗する場合があります。

() 大量買付者が大量買付ルールを遵守した場合

大量買付者が大量買付ルールを遵守した場合には、当社取締役会は、仮に当該大量買付行為に反対であったとしても、当該買付提案についての反対意見を表明したり、代替案を提示することにより、株主の皆さまを説得するに留め、原則として当該大量買付行為に対する対抗措置は講じません。

() 取締役会の決議、および株主総会の開催

当社取締役会は、上記()または()において対抗措置の発動の是非について判断を行う場合は、特別委員会の勧告を最大限尊重し、対抗措置の必要性、相当性等を十分検討したうえで対抗措置の発動または不発動等に関する会社法上の機関としての決議を行うものとします。

また、当社取締役会は、特別委員会が対抗措置の発動について勧告を行い、発動の決議について株主総会の開催を要請する場合には、当社株主総会を開催することとします。

() 大量買付行為待機期間

株主の皆さまに本プランによる対抗措置を発動することの可否を十分にご検討いただくための期間(以下、「株主検討期間」といいます。)を設けない場合は、取締役会評価期間終了までを、また株主検討期間を設ける場合には取締役会評価期間と株主検討期間をあわせた期間終了までを大量買付行為待機期間とします。そして大量買付行為待機期間においては、大量買付行為は実施できないものとします。

したがって、大量買付行為は、大量買付行為待機期間の経過後にのみ開始できるものとします。

f. 本プランの有効期限等

本プランの有効期限は、平成27年6月30日までに開催予定の当社定時株主総会終結の時までとなっております。

ただし、本プランは、有効期間中であっても、株主総会または取締役会により本プランを廃止する旨の決議が行われた場合には、その時点で廃止されるものとします。

なお、本プランの詳細につきましては、当社インターネットホームページにその開示資料を掲載しておりますのでご参照ください(<http://www.regal.co.jp/>)。

本プランの合理性について（本プランが会社の支配に関する基本方針に沿い、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に合致し、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではないことについて）

当社では、本プランの設計に際して、以下の諸点を考慮することにより、会社の支配に関する基本方針に沿い、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に合致するものであり、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものとはならないと考えております。

a．買収防衛策に関する指針の要件を充足していること

本プランは、経済産業省および法務省が平成17年5月27日に発表した企業価値・株主共同の利益の確保または向上のための買収防衛策に関する指針の定める三原則（企業価値・株主共同の利益の確保・向上の原則、事前開示・株主意思の原則、必要性・相当性確保の原則）ならびに経済産業省に設置された企業価値研究会が平成20年6月30日に発表した報告書「近時の諸環境の変化を踏まえた買収防衛策の在り方」の内容を踏まえたものとなっております。

また、同様に株式会社大阪証券取引所の定める「企業行動規範に関する規則 第11条（買収防衛策の導入に係る遵守事項）」につきましても充足しております。

b．株主共同の利益の確保・向上の目的をもって導入されていること

本プランは、当社株式に対する大量買付行為がなされた際に、当該大量買付行為に応じるべきか否かを株主の皆さまが判断し、あるいは当社取締役会が代替案を提示するために必要な情報や時間を確保し、または株主の皆さまのために買付者等と交渉を行うこと等を可能とすることにより、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保し、向上させるという目的をもって導入したものです。

c．株主意思を反映するものであること

本プランは、有効期間中であっても、当社株主総会において本プランを廃止する旨の決議が行われた場合には、本プランはその時点で廃止されることになり、株主の皆さまのご意向が反映されます。

d．独立性の高い社外者の判断の重視

本プランにおける対抗措置の発動は、当社の業務執行から独立している委員で構成される特別委員会へ諮問し、同委員会の勧告を最大限尊重するものとされており、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資するよう、本プランの透明な運用を担保するための手続きも確保されております。

e．デッドハンド型およびスローハンド型買収防衛策ではないこと

本プランは、当社の株主総会において選任された取締役により構成される取締役会によって廃止することが可能です。したがって、本プランは、デッドハンド型買収防衛策（取締役会の構成員の過半数を交代させてもなお、発動を阻止できない買収防衛策）ではありません。

また、当社においては取締役の任期を1年としておりますので、スローハンド型買収防衛策（取締役会の構成員の交代を一度に行うことができないため、その発動を阻止するのに時間を要する買収防衛策）でもありません。

なお、当社では取締役解任決議要件につきましても、特別決議を要件とするような決議要件の加重をしておりません。

4 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の異常な変動

当社グループにおける平成24年3月期での売上構成比は靴卸売事業が50.9%、靴小売事業が48.5%であります。靴卸売事業の売上増加率は平成24年3月期では+3.5%増加いたしました。平成22年3月期11.6%、平成23年3月期4.5%と前期まで減少を続けておりました。靴卸売事業は、得意先である靴専門店が競争の激化、後継者難などにより近年その数を減少させてきており、今後とも売上の大きな回復は困難であると予想しております。

(2) 為替相場変動の影響について

当社は輸入による商品の調達が増加してきており、為替による価格変動のリスクが増大する可能性があります。当社では、為替変動リスクを軽減するため、適切なタイミングで為替予約取引を行っておりますが、為替相場変動による影響を全て回避するものではなく、今後についても当社グループの業績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 特有の法的規制等に係るもの

革靴は関税割当（Tariff Quota 以下TQという）制度の対象品目であり、当社グループもそのTQ枠を使用して輸入をする一方、当該制度により国内供給元として海外商品の過剰流入から保護されております。近年特惠国である3か国を中心にTQ枠外での輸入が増加しており、今後完全自由化が実施されますと当社グループの製造部門のみならず、わが国の靴産業に多大な影響をもたらす可能性があります。

(4) 役員、従業員、大株主、関係会社等に関する重要事項に係るもの

提出会社の大株主である㈱ニッピ（議決権被所有割合 直接23.0% 間接1.2%）は同時に持分法適用関連会社（議決権所有割合23.5%）であり役員4名が兼任しております。

(5) 業績の下半期偏重について

当社グループの販売状況は下半期偏重傾向にあります。人件費、設備費用など、販売費及び一般管理費は上半期、下半期ともほぼ均等額であります。そのため当社グループの業績も下半期に偏る傾向にあります。最近2連結会計年度における実績は下記の通りであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)			当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)		
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期
売上高 (百万円) (構成比) (%)	15,866 (47.9)	17,248 (52.1)	33,114 (100.0)	16,211 (46.1)	18,960 (53.9)	35,171 (100.0)
売上総利益 (百万円) (構成比) (%)	7,110 (48.7)	7,504 (51.3)	14,615 (100.0)	7,370 (46.1)	8,604 (53.9)	15,975 (100.0)
販売費及び一般管理費 (百万円) (構成比) (%)	6,734 (50.1)	6,714 (49.9)	13,449 (100.0)	6,576 (48.6)	6,965 (51.4)	13,541 (100.0)
営業利益 (百万円) (構成比) (%)	375 (32.2)	790 (67.8)	1,166 (100.0)	794 (32.6)	1,638 (67.4)	2,433 (100.0)

(6) 需要動向の変化

当社グループの取扱商品のうち婦人靴は、季節的変動による影響を受けやすい商品であり、また、ファッショントレンドの変化や消費者の短期的な嗜好の変化により、商品に対する需要が低下した場合、当社グループの業績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 天候や自然災害による影響について

当社グループの取扱商品は、気候変動の影響を受けやすい商品であるため、暖冬・冷夏等の天候不順や震災・風水害等の大規模な自然災害の発生により、当社グループの業績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(8) 原材料価格等の高騰

当社グループの使用する原材料には、原油価格等の高騰により、その価格が変動するものがあります。それら原材料の価格が高騰することにより、調達及び製造コストが上昇し、当社グループの業績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(9) 個人情報の取り扱いについて

当社グループは、直営店舗等の顧客に関する個人情報を保管・管理しております。かかる個人情報の取り扱いについては、顧客情報保護規程に基づくルールを徹底しておりますが、何らかの事情により個人情報が流出した場合には、社会的信用や損害賠償責任の問題等により、当社グループの業績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

(1) ライセンス契約

契約会社名	相手先の名称	相手先の所在地	契約品目	契約内容	契約期限
(株)リーガルコーポレーション	ブラウン・シュー・カンパニー・インク	米 国	「ナチュラルライザー」・「ライフストライド」ブランド	「ナチュラルライザー」等のライセンス契約	平成29年1月
	ジェオックス・エス・ピー・エー	イタリア	「ジェオックス」ブランド	「ジェオックス」(紳士靴ビジネス)のライセンス契約	平成24年12月

- (注) 1 「ナチュラルライザー」ブランドについてはロイヤリティとして売上高の一定率を支払っております。
 2 当連結会計年度において「ライフストライド」ブランドについてのロイヤリティは発生しておりません。
 3 「ジェオックス」ブランドについてはロイヤリティとして売上高の一定率又は最低保障額を支払っております。

(2) 技術援助契約

契約会社名	相手先の名称	相手先の所在地	契約品目	契約内容	契約期限
(株)リーガルコーポレーション	インターナショナル・レザー・ファッション・コーポレーション・リミテッド	タイ	「リーガル」ブランド	技術供与契約	平成27年10月 (5年毎に自動更新)

- (注) 上記についてはロイヤリティとして販売額の一定率又は最低保障額を受けとっております。

6 【研究開発活動】

当連結会計年度の研究開発活動は、提出会社の製造部において、靴関連技術及び材料等の研究をする一方、新製品を円滑に立ち上げ、市場における不具合を発生させないため、また量産品が安定した品質を保つために連結子会社である(株)日本靴科学研究所に委託し、靴及びその材料の研究開発を行っております。

当連結会計年度は革の試験 603件、底材の物性試験 502件、底付け強度試験 539件及びその他の試験を460件、合計 2,104件の試験を委託して実施、評価いたしました。

当連結会計年度における当社グループが支出した研究開発費の総額は 102百万円であります。

なお、当社グループでは、研究開発活動については、セグメント別に把握することが困難であるため、セグメントごとの記載をしておりません。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されており、会計処理基準に関する事項にあるように各種引当金につきましては、見込額を計上しており、たな卸資産につきましては原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）を採用しております。また、繰延税金資産の認識につきましては、将来の回収可能性を検討し評価性引当額を計上していません。

(2) 財政状態の分析

流動資産

当連結会計年度末における流動資産の残高は 17,081百万円と、前連結会計年度末に比べ 2,975百万円増加しております。

これは、現金及び預金が 1,853百万円、受取手形及び売掛金が 1,124百万円増加したことなどが主な要因であります。

固定資産

当連結会計年度末における固定資産の残高は 12,691百万円と、前連結会計年度末に比べ 1,660百万円減少しております。

これは、敷金及び保証金が 1,470百万円減少したことなどが主な要因であります。

流動負債

当連結会計年度末における流動負債の残高は 13,218百万円と、前連結会計年度末に比べ 600百万円減少しております。

これは、未払消費税等その他の流動負債が 532百万円増加したものの、借入金の返済により、短期借入金が 1,294百万円減少したことなどが主な要因であります。

固定負債

当連結会計年度末における固定負債の残高は 6,680百万円と、前連結会計年度末に比べ 493百万円減少しております。

これは、借入金の返済により、長期借入金が 200百万円減少したことや退職給付引当金が 246百万円減少したことなどが主な要因であります。

純資産

当連結会計年度末における純資産の残高は 9,873百万円と、前連結会計年度末に比べ 2,408百万円増加しております。

これは、当期純利益を計上したことにより、利益剰余金が 1,951百万円増加したことなどが主な要因であります。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (2) キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

(4) 経営成績の分析

売上高

当連結会計年度における売上高は、前連結会計年度に比べ 2,056百万円増加し、35,171百万円となりました。

売上高が増加した主な要因は、各種商品企画や販促施策などの効果により、靴小売事業、靴卸売事業ともに売上高が好調に推移したことによるものであります。

売上総利益

当連結会計年度における売上総利益は、前連結会計年度に比べ 1,359百万円増加し、15,975百万円となり、売上総利益率は 45.4%と前連結会計年度に比べ 1.3%上昇しました。原材料価格の上昇などもありましたが、売上高の増加が大きかったことによるものであります。

販売費及び一般管理費

当連結会計年度における販売費及び一般管理費は、前連結会計年度に比べ 92百万円増加し、13,541百万円となりました。賞与引当金の繰入額の増加等、人件費の増加などによるものであります。

営業利益

当連結会計年度における営業利益は、前連結会計年度に比べ 1,267百万円増加し、2,433百万円となりました。前述の売上総利益の増加によるものであります。

経常利益

当連結会計年度における経常利益は、前連結会計年度に比べ 1,679百万円増加し、2,722百万円となりました。前述の営業利益の増加に加え、持分法による投資利益が前連結会計年度に比べ 129百万円増加したことや、デリバティブ評価益86百万円を計上したことなどによるものであります。

特別損益

当連結会計年度において特別損失を 232百万円計上しております。これは店舗の閉鎖、改装などによる固定資産除却損27百万円、連結子会社の解散に伴う関係会社整理損35百万円、また、当社が保有する投資有価証券のうち時価が著しく下落したものについて減損処理を行い、投資有価証券評価損として154百万円を計上したことなどによるものであります。

当期純利益

前述の経常利益の増加により、当連結会計年度において税金等調整前当期純利益は 2,489百万円（前年同期比 300.4%増）となり、法人税等を 526百万円計上したことにより、当期純利益は 1,951百万円（前年同期比 344.2%増）となりました。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因について

今後、関税割当制度が廃止され、革靴輸入の完全自由化が実施されることとなりますと当社グループの製造部門のみならず、わが国の靴産業に多大な影響をもたらす可能性があります。また、靴卸売事業は得意先である靴専門店が競争の激化、後継者難などにより近年その数を減少させてきており、今後とも売上の大きな回復は困難であると予想しております。

(6) 戦略的現状と見通し

上記の様な経営環境におきまして、当社グループは、革靴輸入の完全自由化後に予想される海外ブランドの流入やブランドショップの出店に対処し、「リーガル」のブランド価値を維持・向上するための商品戦略や販売戦略を展開しております。

このように、当社グループは、ブランド戦略や社内組織の見直しなどを含む経営全般の効率化・合理化に取り組んでまいります。また、引き続き靴小売事業の強化を図ってまいります。

(7) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当連結会計年度は、税金等調整前当期純利益の計上などにより、営業活動によるキャッシュ・フローが1,916百万円増加し、差入保証金の回収による収入などにより、投資活動によるキャッシュ・フローが1,454百万円増加しました。また、財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済などにより、1,515百万円の減少となりましたが、それにより有利子負債は減少しております。

(8) 経営者の問題認識と今後の方針について

関税割当制度廃止による革靴輸入の完全自由化の可能性とそれ以前に特惠国からの輸入増加による革靴の低価格化など、国内革靴メーカーは大きな問題を抱えております。さらに景気の停滞による消費者の買い控えや低価格志向の傾向が強まり、取引先である百貨店等への売上減少傾向は続くものと思われま

す。
今後とも「リーガル」が本来持っている品質の高さやつくりの確かさをさらに追求し、海外ブランドにひけをとらない商品を提供すること、また靴小売事業を強化して靴卸売事業の売上高減少をカバーするとともに、全部門がお客さまを第一に考え、期待に添うべく顧客満足を追求してまいります。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資は、主に直営店の出店や改装によるものであります。

当連結会計年度の設備投資の総額は 201百万円であり、セグメントごとの設備投資について示すと、次のとおりであります。

(1) 靴小売事業

当連結会計年度の主な設備投資は、「リーガルシューズ ヨドバシ梅田店」など直営店12店舗を新たに
出店したことや改装による、店舗内装工事等を中心とする総額 126百万円の投資を実施しました。

なお、重要な設備の除却又は売却はありません。

(2) 靴卸売事業

当連結会計年度の主な設備投資は、足型測定器を中心とする総額 5百万円の投資を実施しました。

なお、重要な設備の除却又は売却はありません。

(3) その他

当連結会計年度の主な設備投資は、生産設備を中心とする総額 37百万円の投資を実施しました。

なお、重要な設備の除却又は売却はありません。

(4) 全社共通

当連結会計年度の主な設備投資は、本社の複合機一式等のリース資産を中心とする総額 31百万円の投資を実施しました。

なお、重要な設備の除却又は売却はありません。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

平成24年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他	合計	
本社 (千葉県浦安市) * 1	その他	本社機能	1,435	0	1,237 (4,715)	61	67	2,803	237 〔29〕
大阪支店 (大阪市浪速区) * 2	その他	事務業務			195 (328)			195	2 〔2〕
名古屋営業所 (名古屋市中区) * 3	その他	事務業務			136 (198)			136	〔 〕
フィットイン梅田店 ほか(12店舗) * 6	靴小売 事業	店舗	0	0			0	1	2 〔40〕

(2) 国内子会社

平成24年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
				建物 及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
(株)フィット 東日本	札幌営業所 (札幌市東区)	靴卸売 事業	販売業務	12		25 (287)	0	37	5 [16]
	仙台営業所 (仙台市若林区)	靴卸売 事業	販売業務	14		38 (330)	0	54	12 [12]
	本社 * 1 (千葉県浦安市)	靴卸売 事業	販売業務				0	0	33 [24]
	名古屋営業所 * 3 (名古屋市中区)	靴卸売 事業	販売業務	14			0	15	16 [15]
(株)フィット 近畿日本	本社 * 2 (大阪市浪速区)	靴卸売 事業	販売業務	45			0	46	25 [42]
	福岡営業所 * 4 (福岡市中央区)	靴卸売 事業	販売業務	0			0	0	13 [33]
(株)タップス	本社 * 1 (千葉県浦安市)	靴卸売 事業	販売業務						43 [126]
	大阪営業所 * 2 (大阪市浪速区)	靴卸売 事業	販売業務	0			0	0	23 [69]
	福岡営業所 * 4 (福岡市中央区)	靴卸売 事業	販売業務						8 [31]
(株)ニッカエン タープライズ	柏事務所 * 5 (千葉県柏市)	その他	事務業務	1			0	2	9 [10]
加茂製靴(株)	埼玉工場 (埼玉県南埼玉郡 宮代町)	その他	生産設備	61	0	91 (2,181)	0	153	3 [21]
(株)田山製甲所	田山工場 (岩手県八幡平市)	その他	生産設備	10	0		0	11	21 [13]
岩手製靴(株)	岩手工場 (岩手県盛岡市)	その他	生産設備	11	4	69 (6,010)	0	85	57 [22]
岩手シューズ (株)	岩手工場 (岩手県奥州市)	その他	生産設備	24	3	18 (7,531)	0	46	45 [16]
米沢製靴(株)	米沢工場 (山形県米沢市)	その他	生産設備	1	4	76 (3,672)	0	83	48 [4]
チヨダシュー ズ(株)	新潟工場 (新潟県加茂市)	その他	生産設備	0	4	37 (12,242)	0	42	87 [16]
(株)ニッカ	事務所 * 1 (千葉県浦安市)		事務業務				0	0	8 [4]
	受託運営店舗 (24店舗) * 7	靴小売 事業	店舗	85			32	118	68 [173]
	八重洲店ほか (66店舗) * 6		店舗	260			72	333	128 [136]
東北リーガル シューズ(株)	受託運営店舗 (2店舗) * 7	靴小売 事業	店舗	8			4	13	10 [10]
	仙台店ほか (11店舗) * 6		店舗	17			8	26	29 [14]

(3) 在外子会社

平成24年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
				建物 及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
上海麗格鞋業 有限公司	事務所 * 5 (中国上海市)	靴小売 事業	事務業務				1	1	3 〔 9 〕
	上海久光店ほか (15店舗) * 6		店舗	13			1	14	〔 64 〕
香港麗格靴業 有限公司	事務所 * 5 (香港・九龍)	その他	事務業務	3			1	4	2 〔 7 〕
	東莞事務所 * 5 (中国東莞市)		事務業務 及び見本品 開発設備	2	4		2	9	3 〔 27 〕
	香港店 * 6 (香港・九龍)		店舗	5			0	6	〔 3 〕
蘇州麗格皮革 製品有限公司	蘇州工場 * 5 (中国江蘇省)	その他	生産設備		35		0	36	115 〔 〕

- (注) 1 上記金額には、消費税等は含まれておりません。
2 帳簿価額の「その他」は工具、器具及び備品であります。
3 従業員数の〔 〕は外書であり臨時従業員数であります。
4 * 1 : 本社を共同利用しております。
5 * 2 : 大阪支店を共同利用しております。
6 * 3 : 名古屋営業所を共同利用しております。
7 * 4 : 賃借物件である(株)フィット近畿日本の福岡営業所を共同利用しております。
8 * 5 : 賃借物件であります。
9 * 6 : 各店舗は賃借物件であります。
10 * 7 : 提出会社から運営を受託している店舗で、各店舗は賃借物件であります。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

該当事項はありません。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	130,000,000
計	130,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成24年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年6月27日)	上場金融商品取引所名又は登 録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	32,500,000	32,500,000	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は 1,000株で あります。
計	32,500,000	32,500,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

新株予約権

平成22年1月29日の取締役会決議に基づいて発行した会社法に基づく新株予約権は、次のとおりであります。

	事業年度末現在 (平成24年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成24年5月31日)
新株予約権の数(個)	46,510 (注) 1	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)		
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	46,510 (注) 1	同左
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1株当たり 1	同左
新株予約権の行使期間	平成22年2月16日～ 平成52年2月15日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)		
新株予約権の行使の条件	(注) 2	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。	同左
代用払込みに関する事項		
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項		

(注) 1 新株予約権1個につき目的となる株式数は、1株であります。
ただし、新株予約権の割当日後、当社が株式分割、株式併合を行う場合は、次の算式により付与株式数を調整、調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てる。

$$\text{調整後付与株式数} = \text{調整前付与株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

- 2 (1) 新株予約権者は、当社の取締役の地位を喪失した日の翌日から10日を経過する日までの間に限り新株予約権を一括してのみ行使することができる。
- (2) ストック・オプション割当て後に取締役の役員変更があった場合または退任した場合であっても、割り当てられたストック・オプションの個数は変更されないものとする。
- (3) 割当対象者が新株予約権を放棄した場合、当該割当者は当該放棄に係る新株予約権を行使することができないものとする。

平成23年1月31日の取締役会決議に基づいて発行した会社法に基づく新株予約権は、次のとおりであります。

	事業年度末現在 (平成24年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成24年5月31日)
新株予約権の数(個)	60,868 (注) 1	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)		
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	60,868 (注) 1	同左
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1株当たり 1	同左
新株予約権の行使期間	平成23年2月17日～ 平成53年2月16日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)		
新株予約権の行使の条件	(注) 2	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。	同左
代用払込みに関する事項		
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項		

(注) 1 新株予約権1個につき目的となる株式数は、1株であります。
ただし、新株予約権の割当日後、当社が株式分割、株式併合を行う場合は、次の算式により付与株式数を調整、調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てる。

$$\text{調整後付与株式数} = \text{調整前付与株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

- 2 (1) 新株予約権者は、当社の取締役の地位を喪失した日の翌日から10日を経過する日までの間に限り新株予約権を一括してのみ行使することができる。
- (2) ストック・オプション割当て後に取締役の役員変更があった場合または退任した場合であっても、割り当てられたストック・オプションの個数は変更されないものとする。
- (3) 割当対象者が新株予約権を放棄した場合、当該割当者は当該放棄に係る新株予約権を行使することができないものとする。

平成24年1月31日の取締役会決議に基づいて発行した会社法に基づく新株予約権は、次のとおりであります。

	事業年度末現在 (平成24年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成24年5月31日)
新株予約権の数(個)	46,406 (注) 1	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)		
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	46,406 (注) 1	同左
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1株当たり 1	同左
新株予約権の行使期間	平成24年2月17日～ 平成54年2月16日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)		
新株予約権の行使の条件	(注) 2	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。	同左
代用払込みに関する事項		
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項		

(注) 1 新株予約権1個につき目的となる株式数は、1株であります。

ただし、新株予約権の割当日後、当社が株式分割、株式併合を行う場合は、次の算式により付与株式数を調整、調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てる。

調整後付与株式数 = 調整前付与株式数 × 分割・併合の比率

- 2 (1) 新株予約権者は、当社の取締役の地位を喪失した日の翌日から10日を経過する日までの間に限り新株予約権を一括してのみ行使することができる。
- (2) ストック・オプション割当て後に取締役の役員変更があった場合または退任した場合であっても、割り当てられたストック・オプションの個数は変更されないものとする。
- (3) 割当対象者が新株予約権を放棄した場合、当該割当者は当該放棄に係る新株予約権を行使することができないものとする。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成19年6月27日		32,500,000		5,355	2,038	662

(注) 平成19年6月27日開催の定時株主総会における決議による、資本準備金の欠損てん補による減少であります。

(6) 【所有者別状況】

平成24年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)		16	12	120	8	1	4,764	4,921	
所有株式数 (単元)		6,260	119	12,170	869	1	12,910	32,329	171,000
所有株式数 の割合(%)		19.36	0.37	37.64	2.69	0.00	39.93	100.00	

(注) 自己株式 882,540株は「個人その他」に 882単元、「単元未満株式の状況」に 540株含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成24年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社ニッピ	東京都足立区千住緑町一丁目1番1号	7,207	22.18
みずほ信託銀行株式会社	東京都中央区八重洲一丁目2番1号	1,375	4.23
リーガル取引先持株会	千葉県浦安市日の出二丁目1番8号	1,342	4.13
あいおいニッセイ同和損害保険 株式会社	東京都渋谷区恵比寿一丁目28番1号	796	2.45
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	787	2.42
株式会社みずほコーポレート銀行	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号	687	2.11
ミツワ産業株式会社	東京都台東区浅草六丁目22番2号	590	1.82
株式会社イオスビジネスハウス	東京都渋谷区代官山町17-1-3606	501	1.54
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内一丁目1番2号	500	1.54
株式会社千葉銀行	千葉県千葉市中央区千葉港1-2	499	1.54
計		14,284	43.95

(注) 上記のほか当社所有の自己株式 882千株 (2.72%) があります。

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 882,000 (相互保有株式) 普通株式 150,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 31,297,000	31,297	
単元未満株式	普通株式 171,000		
発行済株式総数	32,500,000		
総株主の議決権		31,297	

(注) 「単元未満株式」には当社所有の自己保有株式 540株および東立製靴株式会社所有の相互保有株式 918株が含まれております。

【自己株式等】

平成24年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社リーガルコーポ レーション	千葉県浦安市日の出二丁目 1番8号	882,000		882,000	2.72
(相互保有株式) 東立製靴株式会社	千葉県柏市豊四季笹原341 13	150,000		150,000	0.46
計		1,032,000		1,032,000	3.18

(9) 【ストックオプション制度の内容】

当社は、取締役の経営の成果責任を明確にし、公正で透明性の高い役員報酬制度にすべく、新株予約権方式による株式報酬型ストック・オプション制度を採用しております。

当該制度は、会社法に基づき、平成21年6月24日の定時株主総会において決議されたものであります。

当該制度の内容は、次のとおりであります。

決議年月日	平成22年1月29日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役（社外取締役を除く）7名
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
株式の数	(注) 1
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1株当たり 1
新株予約権の行使期間	平成22年2月16日～平成52年2月15日
新株予約権の行使の条件	(注) 2
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。
代用払込みに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	

決議年月日	平成23年1月31日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役（社外取締役を除く）7名
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
株式の数	(注) 1
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1株当たり 1
新株予約権の行使期間	平成23年2月17日～平成53年2月16日
新株予約権の行使の条件	(注) 2
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。
代用払込みに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	

決議年月日	平成24年1月31日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役（社外取締役を除く）7名
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
株式の数	(注) 1
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1株当たり 1
新株予約権の行使期間	平成24年2月17日～平成54年2月16日
新株予約権の行使の条件	(注) 2
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。
代用払込みに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	

(注) 1 新株予約権1個当たりの目的である株式の数は、当社普通株式1株とします。

各定時株主総会の日から、1年以内に発行する新株予約権は150,000株（1株×150,000個）を上限とし、当社取締役（社外取締役を除く）に対して年額2,000万円以内とします。

なお、定時株主総会決議後に、当社が当社普通株式の株式分割（当社普通株式の株式無償割当を含みま
す、以下同じ）または株式併合を行う場合には、次の算式により割当株式数の調整を行い、調整の結果生じ
る1株未満の端数は、これを切り捨てます。

$$\text{調整後割当株式数} = \text{調整前割当株式数} \times \text{株式分割または株式併合の比率}$$

また、決議日後に、当社が合併、会社分割または資本金の額の減少を行う場合その他これらの場合に準じて
割当株式数の調整を必要とする場合には、当社は、合理的な範囲で割当株式数を適切に調整することができ
るものとします。

- 2 (1) 新株予約権者は、当社の取締役の地位を喪失した日の翌日から10日を経過する日までの間に限り新株
予約権を一括してのみ行使することができる。
- (2) ストック・オプション割当て後に取締役の役位変更があった場合または退任した場合であっても、割
り当てられたストック・オプションの個数は変更されないものとする。
- (3) 割当対象者が新株予約権を放棄した場合、当該割当者は当該放棄に係る新株予約権を行使するこ
とができないものとする。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	1,629	237
当期間における取得自己株式	1,105	289

(注) 当期間における取得自己株式には、平成24年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(千円)	株式数(株)	処分価額の総額(千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他 ()				
保有自己株式数	882,540		883,645	

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成24年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、当業界の収益が市況動向による影響を受けやすいことから、将来にわたり安定的な経営基盤の確保と競争力の強化のため、内部留保の充実に留意いたしますとともに、配当政策につきましては、安定配当の維持を基本方針としております。

当社は会社法第459条の規定に基づき、取締役会の決議によって剰余金の配当を行うことができる旨を定款に定めております。また、当社の剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を基本的な方針としておりますが、そのほか、基準日を定めて剰余金の配当をすることができる旨を定款に定めております。

なお、当事業年度の剰余金の配当につきましては、安定配当維持の基本方針のもと、1株当たり3円としております。

内部留保資金の用途につきましては、今後の事業展開の備えとしていくこととしております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成24年5月24日取締役会決議	94	3

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第176期	第177期	第178期	第179期	第180期
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
最高(円)	227	220	146	154	254
最低(円)	188	130	129	92	115

(注) 最高・最低株価は、平成22年3月31日以前はジャスダック証券取引所におけるものであり、平成22年4月1日から平成22年10月11日までは大阪証券取引所（JASDAQ市場）におけるものであり、平成22年10月12日以降は大阪証券取引所JASDAQ（スタンダード）におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成23年10月	11月	12月	平成24年1月	2月	3月
最高(円)	132	145	154	184	205	254
最低(円)	123	130	135	143	180	199

(注) 最高・最低株価は、大阪証券取引所JASDAQ（スタンダード）におけるものであります。

5 【役員 の 状 況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長		岩 崎 幸次郎	昭和25年 1月30日生	昭和51年 1月 当社入社 平成13年10月 当社開発設計部長 平成14年 4月 当社執行役員 開発設計部長 平成18年 4月 当社執行役員 調達副本部長、輸 入部長 平成18年 6月 当社取締役 調達副本部長、海外 調達担当、輸入部長 平成22年 4月 当社代表取締役社長(現在) 平成23年 6月 株式会社ニッピ取締役(現在)	(注) 4	27
常務取締役	調達本部長	大 川 修 一	昭和26年 7月 8日生	昭和50年 4月 当社入社 平成13年10月 当社営業統括部長 平成14年 6月 当社取締役 営業副本部長 平成17年 6月 当社常務取締役 営業本部長、事 業開発部・国際部担当 平成19年 6月 当社専務取締役 経営全般、調達 本部長 平成21年 4月 当社代表取締役専務取締役 経 営全般、営業本部長、調達本部長 平成22年 4月 当社常務取締役 調達本部長(現 在)	(注) 4	15
常務取締役	管理本部長	亀 田 元 之	昭和22年 1月31日生	昭和44年 4月 日商岩井株式会社(現 双日株式 会社)入社 平成11年 6月 同社財務部長 平成14年 6月 日商エレクトロニクス株式会社 取締役 平成20年 3月 株式会社ネクストジェン取締役 ・執行役員 平成21年 4月 株式会社ニッピ経理部 部長 平成21年 6月 当社取締役 平成22年 6月 当社常務取締役 管理本部長(現 在)	(注) 4	4
取締役	小売事業 本部長	水 谷 基 治	昭和31年 1月27日生	昭和57年 4月 当社入社 平成13年 4月 当社調達部長 平成16年 6月 当社取締役 営業副本部長、紳士 営業部長 平成19年 6月 当社常務取締役 営業本部長、事 業開発部・国際部担当、紳士営 業部長 平成22年 4月 当社取締役 小売事業本部長、小 売子会社担当、小売統括部長 平成22年10月 当社取締役 小売事業本部長、小 売子会社担当 平成24年 4月 当社取締役 小売事業本部長(現 在)	(注) 4	19
取締役	営業 本部長	田 中 互	昭和30年10月11日生	昭和53年 4月 当社入社 平成19年 4月 当社営業副本部長 平成19年 6月 当社取締役 営業副本部長、卸売 子会社担当 平成22年 4月 当社取締役 営業本部長(現在)	(注) 4	17

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役	経営企画 室長	安田 直人	昭和29年1月23日生	昭和51年4月 平成19年4月 平成22年6月	当社入社 当社内部監査室長 当社取締役 経営企画室長(現在)	(注) 4	9
取締役	管理 副本部長 経理部長	浦 聖貴	昭和35年3月7日生	昭和58年4月 平成20年4月 平成22年4月 平成22年6月	当社入社 当社経理部長 当社管理副本部長、経理部長 当社取締役 管理副本部長、経理部長(現在)	(注) 4	8
取締役	調達 副本部長 製造部長	森 誠二	昭和27年7月18日生	昭和51年4月 平成22年4月 平成24年6月	当社入社 当社調達副本部長、製造部長 当社取締役 調達副本部長、製造部長(現在)	(注) 4	
取締役		伊藤 隆男	昭和18年1月28日生	昭和60年9月 平成13年5月 平成13年10月 平成15年6月 平成21年1月 平成21年6月 平成22年6月	大鳳商事株式会社代表取締役社長(現在) 大倉フーズ株式会社代表取締役会長(現在) 株式会社ニッピコラーゲン化粧品代表取締役社長(現在) 株式会社ニッピ代表取締役社長(現在)、ニッピコラーゲン工業株式会社代表取締役社長(現在) 鳳凰事業株式会社代表取締役(現在)、財団法人日本皮革研究所(現 一般財団法人日本皮革研究所)理事長(現在) 中央建物株式会社取締役(現在) 当社取締役(現在)	(注) 4	0
監査役 (常勤)		森 正博	昭和28年10月27日生	昭和51年4月 平成20年4月 平成23年4月 平成23年6月	当社入社 当社人事総務部長 当社管理本部(部付)部長 当社常勤監査役(現在)	(注) 5	3
監査役 (常勤)		萩原 伸朗	昭和28年4月1日生	昭和51年4月 平成11年4月 平成23年6月	当社入社 当社人事総務部 企業法務・コンプライアンス担当 当社常勤監査役(現在)	(注) 5	2
監査役		大倉 喜彦	昭和14年4月22日生	昭和37年4月 平成2年6月 平成6年6月 平成7年6月 平成8年6月 平成10年6月 平成12年6月 平成13年6月 平成14年6月 平成19年4月 平成22年6月	大倉商事株式会社入社 同社取締役 同社常務取締役 中央建物株式会社取締役 大倉商事株式会社代表取締役専務 同社代表取締役社長 当社監査役(現在)、西戸崎開発株式会社取締役(現在) 株式会社ニッピ監査役(現在) 株式会社ホテルオークラ取締役 中央建物株式会社代表取締役社長(現在)、東海パルプ株式会社監査役 特種東海ホールディングス株式会社(現 特種東海製紙株式会社)監査役(現在) 株式会社ホテルオークラ取締役会長(現在)	(注) 5	18

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
監査役		石井英文	昭和17年2月23日生	昭和40年4月 平成9年6月 平成12年12月 平成13年6月 平成15年6月 平成19年8月 平成19年12月 平成21年9月	大倉商事株式会社入社 同社取締役 株式会社ニッビ経営企画室長 (現在) 同社取締役 当社監査役(現在)、株式会社 ニッビ常務取締役(現在) 日皮(上海)貿易有限公司董事長 (現在) ニッビ都市開発株式会社代表取 締役常務(現在) 海寧日皮皮革有限公司董事長 (現在)	(注) 5	
計							122

- (注) 1 取締役伊藤隆男は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
- 2 監査役大倉喜彦、石井英文は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
- 3 監査役大倉喜彦は、大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)に独立役員として届け出ております。
- 4 取締役の任期は、平成24年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成25年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 5 監査役の任期は、平成23年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 6 当社は、法令に定める監査役の数に満たない場合に備え、会社法第329条第2項に定める補欠監査役1名を選任しております。補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
手塚 遼一	昭和13年10月20日生	昭和37年4月 昭和59年3月 平成5年1月 平成7年9月 平成14年1月	大倉事業株式会社入社 株式会社ホテルオークラ新潟 料飲支配人 株式会社川奈ホテル副支配人 株式会社フェヤーマントホテル常務取締役支 配人 同社退社	(注)	

(注) 補欠監査役の任期は、就任した時から退任した監査役の任期の満了の時までであります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、企業価値を継続的に向上させていくために、透明で公正な経営を行うことを目指しております。このため、株主・投資家の皆さまをはじめとするすべてのステークホルダーに対して経営の透明性を高め、コーポレート・ガバナンスを有効に機能させるため、経営環境の変化に迅速かつ柔軟に対応できる組織体制を構築し、維持することを重要な施策としております。

なお、文中の取締役会及び監査役会を構成する人数は、提出日現在のものです。

企業統治の体制

(企業統治の体制の概要とその体制を採用する理由)

(a) 企業統治の体制の概要

当社は監査役制度採用会社の経営体制を基本とし、取締役会は取締役9名、うち社外取締役1名で構成しております。取締役の任期を1年とし、取締役の経営責任をより明確にする体制としております。

監査役会は監査役4名、うち社外監査役2名で構成され、各監査役は監査役会の定めた監査方針の下、取締役会への出席や業務執行の調査を通じ、取締役の職務執行を監査しております。

内部監査室は、社長直轄とし、常勤監査役との連携により内部監査を実施し、定期的に取り締役に報告しております。

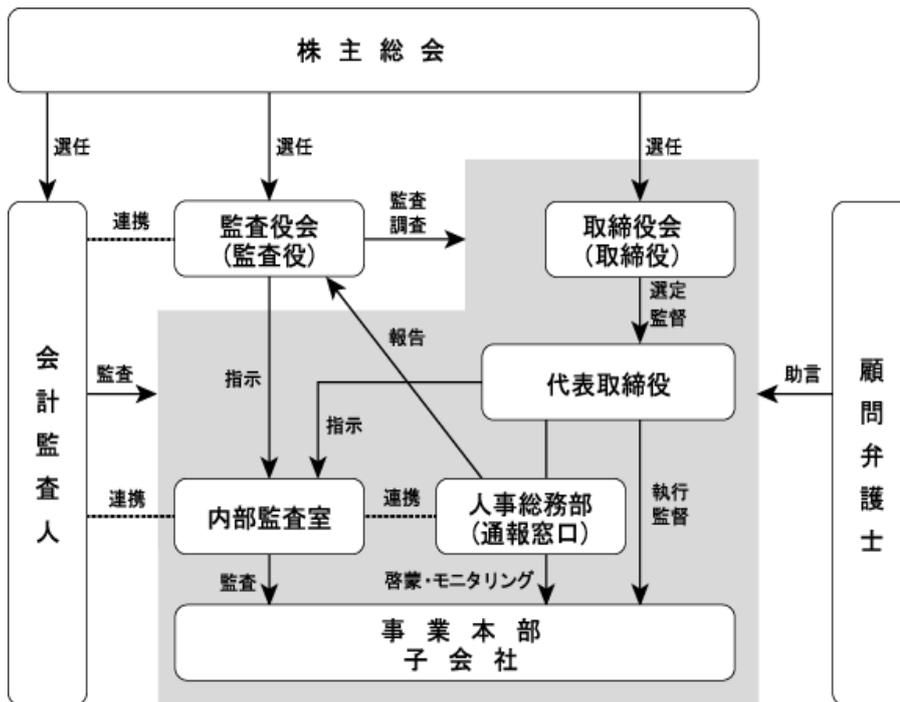
会計監査人は、監査法人公認会計士古谷義雄氏及び角田浩氏であり、同監査法人により期中および期末監査が実施されております。

(b) 現状の体制を採用している理由

当社の取締役会においては、各取締役をはじめ社外取締役、常勤監査役、社外監査役が各々の判断で意見を述べる場となっております。そのため、取締役会開催を原則月1回としているにもかかわらず、平成23年度には18回開催するなど業務執行に関する重要な意思決定ができ、また、取締役の職務の執行の監督ができる会議体となっていると考えております。

なお、複数の弁護士事務所等と顧問契約を締結し、必要に応じて重要な意思決定や日常の業務執行の助言を受けております。

(c) 会社の機関及び内部統制の関係図



(企業統治に関する事項 - 内部統制システムの整備の状況、リスク管理体制の整備の状況)

当社及び当社の子会社が、業務の適正を確保するための体制として、取締役会において決議した事項は次のとおりであります。

(a) 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

(イ) 社長をコンプライアンス最高責任者、管理本部担当取締役をコンプライアンス統括責任者とし、全役職員が法令・定款はもとより、当社の経営理念・目標、各種内部ルール、社会規範に則し適正な職務を執行し得る態勢を整備する。

(ロ) コンプライアンス統括責任者は、コンプライアンスマニュアルの作成等、コンプライアンス推進のためのルール・体制の整備を行うとともに、内部監査室長にその取組状況を監査させる等、コンプライアンスの徹底を図る。また、人事総務部をコンプライアンス推進部門として役職員に対する啓蒙・教育に当たらせる。

(ハ) コンプライアンス統括責任者は、内部通報窓口を設置する等、役職員のコンプライアンス違反情報を速やかに収集する体制を確保する。違反情報については、内部監査室・関係部門と連携して事実を調査し、再発防止策を決定するとともに、重大な違反については、取締役会に報告する。

(b) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役会は文書管理規程を定め、人事総務部長を管理責任者として、取締役の職務の執行に係る情報を文書または電磁的媒体に記録し保存、管理する。取締役、監査役はいつでもこれら文書または電磁的媒体を閲覧できる。

(c) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

(イ) 当社を取り巻くリスクを自然災害、事故、内・外的要因や社会的要因に層別して認識し、経営企画室が全社的なリスクの監視・対応を行う。

(ロ) 取締役は各部門長と協同して、担当業務に付随する個別リスクの監視・対応を行うものとし、適宜その状況や対応を取締役に報告・協議する。

(d) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

(イ) 取締役会は、取締役が職務の執行を適正かつ効率的に行えるよう、職務分掌、職務権限、決裁基準はじめ各種ルールやITインフラ等の整備を促進する。

(ロ) 取締役会は中期経営計画を策定し、事業部門毎に業績目標を設定するとともに、これを所管する各取締役は、計画・目標を具体化するために担当部門の事業計画を策定し、実施すべき施策、予算、組織体制や要員を決定する。

(ハ) 取締役は、原則毎月進捗状況をレビューし、取締役に報告する。取締役会では進捗状況を評価し、今後の推進に向けた対応を担当部門に指示する等、職務の効率的遂行を図る。

(e) 当該株式会社並びにその親会社及び子会社からなる企業集団における業務の適正を確保するための体制

販売子会社は営業本部長及び小売事業本部長、生産子会社は調達本部長を責任者として、法令遵守体制・リスク管理体制を構築するほか、コンプライアンス統括責任者は当社グループ全体のコンプライアンスの取組みを統括し、徹底を図る。

(f) 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項

監査役は、必要に応じ内部監査室所属の社員に対し、監査に必要な事項を命令することができる。

(g) 上記(f)の使用人の取締役からの独立性に関する事項

監査役から命令を受けた内部監査室職員は、当該職務の執行に関して内部監査室長、取締役等の指示命令を受けない。

(h) 取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制

取締役及び使用人は、当社及び当社グループの経営に重大な影響を与える事項、内部監査の実施状況、内部通報の状況を速やかに報告する。

(i) その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

監査役は、取締役会に出席するほか随時取締役・会計監査人と意見交換する。

(j) 反社会的勢力排除のための基本的な考え方及び整備状況

(イ) 当社及び当社子会社は、反社会的勢力との一切の関係を遮断し、反社会的勢力による不当要求には毅然とした姿勢で対応する。

(ロ) 反社会的勢力から不当要求を受けた場合の社内対応部署は、人事総務部とするほか、各部門長を責任者として、警察等の外部専門機関と緊密に連携し組織的に対応する。

(責任限定契約の内容の概要)

当社と社外取締役及び社外監査役とは、会社法第423条第1項の賠償責任について、会社法第427条第1項に基づき、会社法第425条第1項に規定する最低限度額を限度とする契約を締結しております。

内部監査及び監査役監査

(a) 内部監査室は2名の専属を要し、常勤監査役との連携により内部監査を実施し、定期的に取り締役に報告しております。なお、内部監査室は社長直轄であります。

(b) 監査役会は、常勤監査役2名、社外監査役2名により構成しております。各監査役は監査役会の決めた監査方針の下、取締役会への出席や業務執行の調査を通じ、取締役の職務執行を監査しております。

社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は1名であります。また、社外監査役は2名であります。

(a) 社外取締役伊藤隆男氏は、株式会社ニッピの代表取締役社長であり、その知識・経験等を活かして当社の経営に的確な助言をいただけるものと判断しております。株式会社ニッピは当社の主要株主（議決権所有割合23.0%）であり、同社は当社の持分法適用の関連会社であります。株式会社ニッピと当社の間では4名の役員が兼務しており、また当社は同社から定期的な商品の仕入等を行っている関係にあります。

(b) 社外監査役大倉喜彦氏は、当社の株主である中央建物株式会社（議決権所有割合0.9%）の代表取締役社長であり、また株式会社ホテルオークラの取締役会長であります。経営者としての豊かな経験と幅広い見識を有していることから、社外監査役をお願いしております。

また、当社との間に特別な関係がない法人の業務執行者であること、経営陣からの著しいコントロールを受ける者でもなく、経営陣に対し著しいコントロールを及ぼしうるものでもないことなどから、独立役員をお願いしております。

(c) 社外監査役石井英文氏は、株式会社ニッピの常務取締役であり、経営者としての豊かな経験と幅広い見識を有していることから、社外監査役をお願いしております。同社と当社との関係は、上記(a)のとおりであります。

(d) 取締役及び使用人は、監査役に対し、当社及び当社グループの経営に重大な影響を与える事項、内部監査の実施状況、内部通報の状況を速やかに報告しております。
監査役は、取締役会に出席するほか、随時取締役、会計監査人と意見交換を行っております。

役員の報酬等

(a) 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)			対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	
取締役 (社外取締役を除く。)	91	68	8	14	7
監査役 (社外監査役を除く。)	30	28		2	4
社外役員	13	12		1	3

(注) 監査役には、当事業年度中に退任した2名を含めております。

(b) 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

(c) 使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

総額(百万円)	対象となる 役員の員数(名)	内容
41	4	各事業の本部長、副本部長及び室長に対する使用人給与であります。

(d) 役員の報酬等の額の決定に関する方針

当社は、「役員報酬に関する内規」に基づき、取締役の報酬等の額及び算定方法については取締役会において、監査役の報酬等の額及び算定方法については監査役の協議において決定しております。

なお、報酬の支給額の総額は平成21年6月24日定時株主総会決議の限度内であります。

(方針の内容の概要)

- (イ) 取締役については、経営を監督する立場にあることから短期的な業績反映部分を排した基本報酬としての「月額報酬」と「株式報酬型ストック・オプション」、業績が反映できる「役員賞与」で構成しております。なお、社外取締役については「株式報酬型ストック・オプション」は付与いたしません。
- (ロ) 監査役については、取締役の職務の執行を監査する権限を有する独立の立場を考慮し、固定報酬である「月額報酬」及び一部業績が反映できる「役員賞与」で構成しており、「株式報酬型ストック・オプション」は付与いたしません。
- (ハ) 「月額報酬」及び「株式報酬型ストック・オプション」は、役位等に基づく等級によって決定し、その水準は、従業員給与とのバランス、役員報酬の世間水準、経営内容を考慮して設定しております。
- (ニ) 「役員賞与」は、会社の営業成績が良好なときには支給することができます。取締役については、それぞれの成果・責任の実態を勘案しその金額を設定しております。

株式の保有状況

(a) 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数	28銘柄
貸借対照表計上額の合計額	679百万円

(b) 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表 計上額 (百万円)	保有目的
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	485,980	186	資金調達及び経営管理の円滑化
(株)みずほフィナンシャルグループ	577,040	79	資金調達及び経営管理の円滑化
(株)チヨダ	45,408	47	営業取引関係の維持・強化
(株)三越伊勢丹ホールディングス	58,080	43	営業取引関係の維持・強化
みずほ信託銀行(株)	523,931	39	資金調達及び経営管理の円滑化
(株)丸井グループ	47,870	25	営業取引関係の維持・強化
(株)ジーフット	31,000	24	営業取引関係の維持・強化
(株)千葉銀行	50,000	23	資金調達及び経営管理の円滑化
(株)常陽銀行	71,000	23	資金調達及び経営管理の円滑化
(株)松屋	43,687	19	営業取引関係の維持・強化
M S & A D インシュアランスグループホールディングス(株)	8,016	15	長期的な友好関係の構築
J . フロントリテイリング(株)	29,685	10	営業取引関係の維持・強化
(株)サンエー・インターナショナル	10,000	9	営業取引関係の維持・強化
東京建物(株)	24,397	7	長期的な友好関係の構築
(株)りそなホールディングス	17,743	7	資金調達及び経営管理の円滑化
大成建設(株)	24,000	4	長期的な友好関係の構築
(株)東日本銀行	25,000	4	資金調達及び経営管理の円滑化
丸八倉庫(株)	20,000	3	長期的な友好関係の構築
(株)丸栄	35,872	3	営業取引関係の維持・強化
(株)平和堂	2,000	2	営業取引関係の維持・強化
第一生命保険(株)	6	0	長期的な友好関係の構築
メルクス(株)	16,537	0	営業取引関係の維持・強化
(株)大和	6,700	0	営業取引関係の維持・強化
昭和ホールディングス(株)	550	0	長期的な友好関係の構築

みなし保有株式

該当事項はありません。

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表 計上額 (百万円)	保有目的
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	485,980	200	資金調達及び経営管理の円滑化
(株)みずほフィナンシャルグループ	859,962	116	資金調達及び経営管理の円滑化
(株)トヨタ	45,408	75	営業取引関係の維持・強化
(株)三越伊勢丹ホールディングス	59,631	57	営業取引関係の維持・強化
(株)松屋	46,222	34	営業取引関係の維持・強化
(株)丸井グループ	47,870	33	営業取引関係の維持・強化
(株)ジーフット	31,000	29	営業取引関係の維持・強化
(株)常陽銀行	71,000	26	資金調達及び経営管理の円滑化
(株)千葉銀行	50,000	26	資金調達及び経営管理の円滑化
J・フロントリテイリング(株)	31,467	14	営業取引関係の維持・強化
M S & A D インシュアランスグループホールディングス(株)	8,016	13	長期的な友好関係の構築
(株)T S I ホールディングス	16,500	8	営業取引関係の維持・強化
東京建物(株)	24,397	8	長期的な友好関係の構築
(株)りそなホールディングス	17,743	6	資金調達及び経営管理の円滑化
(株)丸栄	49,228	5	営業取引関係の維持・強化
大成建設(株)	24,000	5	長期的な友好関係の構築
(株)東日本銀行	25,000	4	資金調達及び経営管理の円滑化
丸八倉庫(株)	20,000	3	長期的な友好関係の構築
(株)平和堂	2,000	2	営業取引関係の維持・強化
第一生命保険(株)	6	0	長期的な友好関係の構築
(株)大和	6,700	0	営業取引関係の維持・強化
メルクス(株)	16,537	0	営業取引関係の維持・強化
昭和ホールディングス(株)	550	0	長期的な友好関係の構築

みなし保有株式

該当事項はありません。

(c) 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

会計監査の状況

(a) 業務を執行した公認会計士の氏名

当社の会計監査業務を執行した公認会計士は、監査法人の古谷義雄、角田浩両氏であり、当社と両氏の間には特別な利害関係はありません。

(b) 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士4名、会計士補等7名となっております。

(c) 監査年数

監査法人 公認会計士 古谷義雄、角田浩両氏のそれぞれの監査年数は、古谷義雄氏7年、角田浩氏3年であります。

取締役会で決議できる株主総会決議事項

(a) 自己の株式の取得

当社は、経済状況の変化に機動的に対応し、効率的な経営を遂行するため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

(b) 剰余金の配当等の決定機関

当社は、機動的な資本政策が可能となるよう、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めのある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議によって定める旨を定款で定めております。

(c) 取締役及び監査役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議によって、同法第423条第1項の行為に関する取締役及び監査役（取締役及び監査役であった者を含む）の損害賠償責任を法令の限度において免除することができる旨を定款に定めております。これは、取締役及び監査役が職務を遂行するにあたり、その能力を十分に発揮して、期待される役割を果たしうる環境を整備することを目的とするものであります。

取締役の定数

当社の取締役は、10名以内とする旨を定款で定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び選任決議は、累積投票によらない旨を定款で定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	29		30	
連結子会社				
計	29		30	

【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度

該当事項はありません。

当連結会計年度

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度

該当事項はありません。

当連結会計年度

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社は、当社の事業規模及び合理的な監査日数並びに前年度の監査報酬等を勘案し、監査公認会計士等と協議のうえ決定しております。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)の財務諸表について、監査法人により監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みとして、会計基準等の内容を適切に把握できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,612	3,465
受取手形及び売掛金	5,085	7 6,210
商品及び製品	6,111	6,110
仕掛品	218	217
原材料及び貯蔵品	519	473
繰延税金資産	310	338
その他	5 641	5 666
貸倒引当金	392	401
流動資産合計	14,106	17,081
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1 4,047	1 4,033
減価償却累計額	1,709	1,859
減損損失累計額	95	87
建物及び構築物(純額)	2,242	2,087
機械装置及び運搬具	1 1,008	1 1,029
減価償却累計額	958	975
機械装置及び運搬具(純額)	50	53
土地	1, 4 2,290	1, 4 2,290
リース資産	79	114
減価償却累計額	8	26
リース資産(純額)	70	88
その他	1,418	1,376
減価償却累計額	1,116	1,124
減損損失累計額	31	29
その他(純額)	270	221
有形固定資産合計	4,925	4,741
無形固定資産		
のれん	77	48
電話加入権	27	25
ソフトウェア	34	23
その他	-	1
無形固定資産合計	138	99
投資その他の資産		
投資有価証券	1, 3 4,115	1, 3 4,670
長期貸付金	36	43
破産更生債権等	264	233
敷金及び保証金	2,895	1,425
繰延税金資産	1,530	1,145
その他	608	488
貸倒引当金	164	156
投資その他の資産合計	9,287	7,850
固定資産合計	14,351	12,691
資産合計	28,458	29,772

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,293	4,415
短期借入金	1, 6 6,721	1, 6 5,427
リース債務	6	14
未払法人税等	106	186
賞与引当金	311	441
役員賞与引当金	-	17
ポイント引当金	459	542
移転関連損失引当金	243	-
店舗閉鎖損失引当金	1	1
災害損失引当金	36	-
その他	1, 5 1,639	1, 5 2,172
流動負債合計	13,819	13,218
固定負債		
長期借入金	1 1,670	1 1,470
リース債務	21	41
退職給付引当金	3,518	3,272
移転関連損失引当金	-	221
繰延税金負債	9	17
再評価に係る繰延税金負債	4 309	4 271
資産除去債務	186	187
その他	1 1,456	1 1,198
固定負債合計	7,173	6,680
負債合計	20,993	19,899
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,355	5,355
資本剰余金	690	690
利益剰余金	1,635	3,586
自己株式	416	417
株主資本合計	7,264	9,215
その他の包括利益累計額		
その他の有価証券評価差額金	210	35
繰延ヘッジ損益	5	3
土地再評価差額金	4 416	4 613
為替換算調整勘定	57	58
その他の包括利益累計額合計	142	587
新株予約権	14	22
少数株主持分	42	47
純資産合計	7,464	9,873
負債純資産合計	28,458	29,772

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
売上高	33,114	35,171
売上原価	18,499	19,196
売上総利益	14,615	15,975
販売費及び一般管理費		
荷造運搬費	924	900
広告宣伝費	861	850
ロイヤリティ	311	293
給料及び手当	5,290	5,406
賞与引当金繰入額	257	379
役員賞与引当金繰入額	-	17
退職給付費用	169	182
法定福利費	802	894
賃借料	2,102	2,015
租税公課	87	94
旅費及び交通費	355	345
減価償却費	383	335
事務費	759	746
保管費	245	244
その他	897	834
販売費及び一般管理費合計	13,449	13,541
営業利益	1,166	2,433
営業外収益		
受取利息	49	22
受取配当金	26	22
持分法による投資利益	124	254
物品売却益	37	29
デリバティブ評価益	-	86
雑収入	60	64
営業外収益合計	297	480
営業外費用		
支払利息	163	124
手形売却損	1	-
デリバティブ評価損	80	-
売上割引	40	33
不動産賃貸費用	62	-
雑支出	72	33
営業外費用合計	421	191
経常利益	1,042	2,722

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
特別利益		
固定資産売却益	-	0
店舗閉鎖損失引当金戻入額	7	-
その他	0	-
特別利益合計	8	0
特別損失		
貸倒引当金繰入額	6	0
会員権評価損	2	-
投資有価証券評価損	155	154
投資有価証券売却損	8	0
固定資産除却損	2 18	2 27
減損損失	3 126	3 13
災害による損失	109	1
関係会社整理損	-	4 35
特別損失合計	428	232
税金等調整前当期純利益	621	2,489
法人税、住民税及び事業税	122	200
法人税等調整額	57	325
法人税等合計	179	526
少数株主損益調整前当期純利益	442	1,963
少数株主利益	2	11
当期純利益	439	1,951

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	442	1,963
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3	245
土地再評価差額金	-	38
為替換算調整勘定	32	2
持分法適用会社に対する持分相当額	4	161
その他の包括利益合計	32	443
包括利益	409	2,406
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	411	2,396
少数株主に係る包括利益	1	9

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	5,355	5,355
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	5,355	5,355
資本剰余金		
当期首残高	702	690
当期変動額		
自己株式の処分	12	-
当期変動額合計	12	-
当期末残高	690	690
利益剰余金		
当期首残高	1,197	1,635
当期変動額		
当期純利益	439	1,951
自己株式の処分	1	-
当期変動額合計	437	1,951
当期末残高	1,635	3,586
自己株式		
当期首残高	439	416
当期変動額		
自己株式の取得	0	0
自己株式の処分	22	-
当期変動額合計	22	0
当期末残高	416	417
株主資本合計		
当期首残高	6,816	7,264
当期変動額		
当期純利益	439	1,951
自己株式の取得	0	0
自己株式の処分	8	-
当期変動額合計	447	1,951
当期末残高	7,264	9,215
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	205	210
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	4	246
当期変動額合計	4	246
当期末残高	210	35
繰延ヘッジ損益		
当期首残高	9	5

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	4	2
当期変動額合計	4	2
当期末残高	5	3
土地再評価差額金		
当期首残高	416	416
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	-	197
当期変動額合計	-	197
当期末残高	416	613
為替換算調整勘定		
当期首残高	30	57
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	27	0
当期変動額合計	27	0
当期末残高	57	58
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	171	142
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	28	444
当期変動額合計	28	444
当期末残高	142	587
新株予約権		
当期首残高	9	14
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	4	8
当期変動額合計	4	8
当期末残高	14	22
少数株主持分		
当期首残高	48	42
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	5	4
当期変動額合計	5	4
当期末残高	42	47
純資産合計		
当期首残高	7,045	7,464
当期変動額		
当期純利益	439	1,951
自己株式の取得	0	0
自己株式の処分	8	-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	28	457
当期変動額合計	419	2,408
当期末残高	7,464	9,873

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	621	2,489
減価償却費	395	349
減損損失	126	13
のれん償却額	27	34
貸倒引当金の増減額（ は減少）	74	1
災害損失引当金の増減額（ は減少）	36	36
賞与引当金の増減額（ は減少）	133	147
ポイント引当金の増減額（ は減少）	39	83
退職給付引当金の増減額（ は減少）	210	246
移転関連損失引当金の増減額（ は減少）	181	21
店舗閉鎖損失引当金の増減額（ は減少）	-	3
受取利息及び受取配当金	75	44
支払利息	163	124
有形固定資産売却損益（ は益）	-	0
有形固定資産除却損	18	27
関係会社整理損	-	35
投資有価証券評価損益（ は益）	155	154
投資有価証券売却損益（ は益）	8	0
持分法による投資損益（ は益）	124	254
売上債権の増減額（ は増加）	971	798
たな卸資産の増減額（ は増加）	194	36
仕入債務の増減額（ は減少）	199	91
未払消費税等の増減額（ は減少）	25	131
破産更生債権等の増減額（ は増加）	86	23
資産除去債務の増減額（ は減少）	13	1
割引手形の増減額（ は減少）	157	326
その他	159	95
小計	1,785	2,109
利息及び配当金の受取額	98	65
利息の支払額	157	121
法人税等の支払額	86	137
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,639	1,916

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	1,173	91
有形固定資産の売却による収入	-	0
のれんの取得による支出	4	-
投資有価証券の取得による支出	19	18
投資有価証券の売却による収入	72	-
貸付けによる支出	-	9
貸付金の回収による収入	2	3
差入保証金の回収による収入	-	1,575
資産除去債務の履行による支出	4	-
その他	295	4
投資活動によるキャッシュ・フロー	832	1,454
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（ は減少）	28	970
長期借入れによる収入	1,635	500
長期借入金の返済による支出	4,031	1,024
自己株式の取得による支出	0	0
少数株主への配当金の支払額	3	10
リース債務の返済による支出	57	10
ストックオプションの行使による収入	0	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,485	1,515
現金及び現金同等物に係る換算差額	19	1
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	1,698	1,853
現金及び現金同等物の期首残高	3,310	1,612
現金及び現金同等物の期末残高	1,612	3,465

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

1 連結の範囲に関する事項

すべての子会社を連結しております。

連結子会社の数 18社

主要な連結子会社名

「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため省略しております。

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の非連結子会社はありません。

(2) 持分法適用の関連会社数 5社

会社名 (株)ニッピ、東立製靴(株)、(株)ボーグ、大鳳商事(株)、山田護謨(株)

(3) 持分法非適用の関連会社はありません。

(4) 持分法の適用の手続について特に記載する必要があると認められる事項

持分法適用の関連会社のうち、決算日が異なる会社については、当該会社の事業年度に係る財務諸表を使用しております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち上海麗格鞋業有限公司及び蘇州麗格皮革製品有限公司の決算日は12月31日であり、連結決算日との差は3ヶ月以内であるため、当該連結子会社の事業年度に係る計算書類を基礎として連結を行っております。ただし、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。なお、その他の連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

4 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

 その他有価証券

 時価のあるもの

 決算期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

 時価のないもの

 移動平均法による原価法

デリバティブ取引

 時価法

たな卸資産

 通常の販売目的で保有するたな卸資産

 評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

 a 商品及び製品

 総平均法に基づく原価法

 b 仕掛品

 総平均法に基づく原価法

C 原材料及び貯蔵品

移動平均法に基づく原価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

当社及び国内連結子会社は、定率法によっております。

ただし、平成10年4月以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については定額法を採用しております。

在外連結子会社は、見積耐用年数による定額法によっております。

無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

なお、自社利用ソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロ（ただし、残価保証の取り決めがある場合は当該保証額）とする定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、回収不能見込額を計上しております。

a 一般債権

貸倒実績率法により計上しております。

b 貸倒懸念債権及び破産更生債権等

財務内容評価法により計上しております。

賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、給与規程に基づき支給見込額のうち当連結会計年度に負担すべき額を計上しております。

役員賞与引当金

役員の賞与支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

ポイント引当金

将来のポイントカードの使用による費用発生に備えるため、当連結会計年度末における将来利用見込額を計上しております。

店舗閉鎖損失引当金

店舗閉店の意思決定時点において、閉店により発生が見込まれる固定資産除却損や原状回復費用等の閉店関連損失額について合理的な見積額を計上しております。

退職給付引当金

従業員の退職金支給に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。また、数理計算上の差異については、3年間の定率法により、それぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

移転関連損失引当金

旧本社跡地において、将来発生が見込まれる土壌改良費等の損失額について合理的な見積額を計上しております。

(4) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産、負債、収益及び費用は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び少数株主持分に含めております。

(5) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

原則として繰延ヘッジ処理によっております。

なお、特例処理の要件を満たしている金利スワップ等については、特例処理によっております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段

デリバティブ取引（為替予約取引、金利スワップ取引等）

ヘッジ対象

相場変動等による損失の可能性があり、相場変動等が評価に反映されないもの及びキャッシュ・フローが固定されその変動が回避されるもの

ヘッジ方針

相場変動等による損失の可能性が極めて高いと判断した場合及びキャッシュ・フローの固定を必要と判断した場合に取締役会の承認を得てヘッジ目的でデリバティブ取引を行っております。

ヘッジの有効性評価の方法

為替予約取引は元本交換を行わない固定レートによるクーポンスワップによっており、また金利スワップ等は固定金利であり、ヘッジ手段の有効性を定期的に確認しております。

その他リスク管理方法のうちヘッジ会計に係るもの

ヘッジ対象、ヘッジ手段は取締役会で決定され、取締役会での決定事項の実行及び管理は経理部が行っております。管理本部長はヘッジの有効性を判断し、有効性について疑義がある場合は取締役会に報告しております。

(6) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、その個別案件ごとに判断し、発生日以後、投資効果の発現する期間（5年～20年）で均等償却しております。ただし、金額が僅少である場合は、発生会計年度に一括償却しております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期的な投資であります。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜き方式によっております。

【会計方針の変更】

該当事項はありません。

【表示方法の変更】

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「ソフトウェア償却費」、「長期前払費用償却額」、「株式報酬費用」、「その他の資産の増減額」及び「その他の負債の増減額」は、重要性が乏しいため、当連結会計年度より「その他」に一括掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「ソフトウェア償却費」10百万円、「長期前払費用償却額」14百万円、「株式報酬費用」8百万円、「その他の資産の増減額」40百万円及び「その他の負債の増減額」151百万円は、「その他」159百万円として組み替えております。

【追加情報】

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

1 このうち一部に工場抵当法による根抵当権を、他の一部に抵当権をそれぞれ設定し、短期借入金、未払金(流動負債その他)、長期借入金及び長期未払金(固定負債その他)の担保に供しております。

(1) 担保差入資産の簿価

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
	(うち工場財団)	
土地	2,250百万円 (255百万円)	2,250百万円 (255百万円)
建物及び構築物	1,783百万円 (11百万円)	1,661百万円 (12百万円)
機械及び装置	13百万円 (13百万円)	16百万円 (16百万円)
投資有価証券	3,234百万円	3,441百万円
計	7,281百万円 (280百万円)	7,369百万円 (283百万円)

(2) 対応する債務の金額

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
短期借入金	5,721百万円	4,693百万円
流動負債その他	70百万円	141百万円
長期借入金	1,570百万円	1,470百万円
固定負債その他	1,129百万円	988百万円
計	8,492百万円	7,293百万円

2 受取手形割引高

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
受取手形割引高	326百万円	

3 関連会社に対するものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
投資有価証券(株式)	3,412百万円	3,821百万円

4 土地の再評価

当社及び一部の国内連結子会社は、土地の再評価に関する法律（平成10年3月31日公布法律第34号及び平成11年3月31日の同法律の改正）に基づき、事業用の土地の再評価を行い、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

・再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令（平成10年3月31日公布政令第119号）第2条第4号に定める路線価に基づいて、奥行価格補正等の合理的な調整を行って算出したほか、路線価の定められていない地域については同条第3号に定める固定資産税評価額に基づいて、合理的な調整を行って算出しております。

・再評価を行った年月日

平成12年3月31日

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
再評価を行った土地の期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額	321百万円	352百万円

5 資金決済に関する法律に基づき担保に供している資産及び対応する債務

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
(担保に供している資産)		
流動資産その他	43百万円	44百万円
(対応する債務)		
流動負債その他	48百万円	58百万円

6 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行10行と当座貸越契約を締結しております。

当連結会計年度末における当座貸越契約に係る借入金未実行残高等は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
当座貸越極度額	5,565百万円	6,365百万円
借入実行残高	3,465 "	2,565 "
差引額	2,100百万円	3,800百万円

7 期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
受取手形		43百万円

(連結損益計算書関係)

- 1 通常の販売目的で保有するたな卸資産の収益性の低下による簿価切下額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
売上原価	332百万円	602百万円

- 2 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
建物及び構築物	15百万円	19百万円
機械装置及び運搬具	0百万円	
その他(工具、器具及び備品)	2百万円	8百万円
計	18百万円	27百万円

3 減損損失

当社グループは、以下のとおり減損損失を計上しました。

前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)

(1) 減損損失を認識した資産

(靴小売事業用資産)

用途	種類	場所
店舗設備	建物及び構築物、その他 (工具、器具及び備品)	福岡市中央区他 17店舗

当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す測定可能な最小単位として、店舗を基本単位とした「靴小売事業用資産」及び「各関連事業用資産」としてグルーピングを行っております。

なお、遊休資産については個別物件を基本単位としてグルーピングを行っております。

(2) 減損損失を認識するに至った経緯

「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、収益性の低下が見込まれる一部の固定資産（店舗設備）について、減損損失を計上しました。

(3) 減損損失の金額

建物及び構築物	95百万円
その他(工具、器具及び備品)	31百万円
合計	126百万円

(4) 回収可能価額の算定方法

回収可能価額は使用価値又は正味売却価額のうちいずれか高い方の金額で測定しており、時価は市場価額を基礎として合理的な見積りにより評価しております。

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

(1) 減損損失を認識した資産

(靴小売事業用資産)

用途	種類	場所
店舗設備	建物及び構築物、その他 (工具、器具及び備品)	横浜市中区 2店舗

当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す測定可能な最小単位として、店舗を基本単位とした「靴小売事業用資産」及び「各関連事業用資産」としてグルーピングを行っております。

なお、遊休資産については個別物件を基本単位としてグルーピングを行っております。

(2) 減損損失を認識するに至った経緯

「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、収益性の低下が見込まれる一部の固定資産（店舗設備）について、減損損失を計上しました。

(3) 減損損失の金額

建物及び構築物	10百万円
その他（工具、器具及び備品）	2百万円
合計	13百万円

(4) 回収可能価額の算定方法

回収可能価額は使用価値又は正味売却価額のうちいずれか高い方の金額で測定しており、時価は市場価額を基礎として合理的な見積りにより評価しております。なお、売却や他への転用が困難な資産は1円評価としております。

4 関係会社整理損

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

当社の連結子会社であります株式会社オンディーヌが、平成24年2月29日をもって解散いたしました。これに伴い、解散による損失 35百万円を計上しております。

5 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
116百万円	102百万円

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

その他有価証券評価差額金

当期発生額	56百万円
組替調整額	154 "
税効果調整前	211百万円
税効果額	34 "
その他有価証券評価差額金	245百万円

土地再評価差額金

税効果額	38百万円
土地再評価差額金	38百万円

為替換算調整勘定

当期発生額	2百万円
為替換算調整勘定	2百万円

持分法適用会社に対する持分相当額

当期発生額	161百万円
組替調整額	0 "
持分法適用会社に対する持分相当額	161百万円

その他の包括利益合計 443百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	32,500,000			32,500,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	2,659,272	2,382	66,401	2,595,253

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の買取りによる増加 2,055株

持分法適用会社が保有している自己株式(当社株式)の当社持分割合の増加による当社帰属分 327株

減少数の内訳は、次の通りであります。

ストック・オプションの権利行使による減少 27,131株

持分法適用会社が保有している自己株式(当社株式)の売却による減少 39,270株

3 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数(株)				当連結会計年度末残高(百万円)
			当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末	
提出会社	平成22年ストック・オプションとしての新株予約権					5	
	平成23年ストック・オプションとしての新株予約権					8	
合計						14	

当連結会計年度（自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日）

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	32,500,000			32,500,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	2,595,253	18,265		2,613,518

（変動事由の概要）

増加数の内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の買取りによる増加 1,629株

持分法適用会社の自己株式(当社株式)の購入による増加のうち当社帰属分 16,500株

持分法適用会社が保有している自己株式(当社株式)の当社持分割合の増加による当社帰属分 136株

3 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数(株)				当連結会計年度末残高(百万円)
			当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末	
提出会社	平成22年ストック・オプションとしての新株予約権					5	
	平成23年ストック・オプションとしての新株予約権					8	
	平成24年ストック・オプションとしての新株予約権					8	
合計						22	

4 配当に関する事項

基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年 5月24日 取締役会	普通株式	利益剰余金	94	3.00	平成24年 3月31日	平成24年 6月28日

（連結キャッシュ・フロー計算書関係）

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
現金及び預金	1,612百万円	3,465百万円
計	1,612百万円	3,465百万円
預入期間が3か月を超える 定期預金		
現金及び現金同等物	1,612百万円	3,465百万円

(リース取引関係)

リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引

(借主側)

リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

前連結会計年度(平成23年3月31日)

	工具、器具及び備品	その他無形固定資産	合計
取得価額相当額	26百万円	31百万円	58百万円
減価償却累計額相当額	24百万円	30百万円	54百万円
期末残高相当額	2百万円	1百万円	4百万円

当連結会計年度(平成24年3月31日)

	工具、器具及び備品	その他無形固定資産	合計
取得価額相当額	6百万円	7百万円	13百万円
減価償却累計額相当額	5百万円	6百万円	12百万円
期末残高相当額	0百万円	0百万円	1百万円

未経過リース料期末残高相当額

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
1年以内	3百万円	1百万円
1年超	1百万円	
合計	4百万円	1百万円

支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
支払リース料	13百万円	3百万円
減価償却費相当額	12百万円	2百万円
支払利息相当額	0百万円	0百万円

減価償却費相当額及び支払利息相当額の算定方法

減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

支払利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額の差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

1 ファイナンス・リース取引

(借主側)

(1) リース資産の内容

有形固定資産

主として、浦安本社の電話交換機及び店舗レジシステムのサーバー（工具、器具及び備品）であります。

(2) リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロ（ただし、残価保証の取り決めがある場合は当該保証額）とする定額法によっております。

2 オペレーティング・リース取引

(借主側)

該当事項はありません

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、主に靴関連の製造販売事業を行うための設備投資計画に照らして、必要な資金を調達しております。資金運用については短期的な預金等に限定し、また、資金調達については主に銀行借入による方針です。デリバティブは、借入金の金利変動リスク及び外貨建営業債務の為替リスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、当社グループの債権管理規程に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を定期的に把握する体制としております。

投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されていますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、定期的に把握された時価が取締役会に報告されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、1年以内の支払期日であります。また、その一部には、商品等の輸入に伴う外貨建てのものがあり、為替の変動リスクに晒されていますが、このうち一部は、為替予約取引を利用してヘッジしております。

借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る調達資金であり、未払金（流動負債その他）、長期借入金及び長期未払金（固定負債その他）は、主に設備投資に係る資金調達であります。償還日は決算日後、最長で8年後であります。このうち一部は、変動金利であるため金利の変動リスクに晒されていますが、長期のものの一部については、支払金利の変動リスクを回避し支払利息の固定化を図るために、個別契約ごとにデリバティブ取引（金利スワップ取引）を利用してヘッジしております。

ヘッジの有効性の評価方法については、金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、その判定を持って有効性の評価を省略しております。

デリバティブの利用にあたっては、信用リスクを軽減するために、格付の高い金融機関とのみ取引を行っております。

なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の「会計処理基準に関する事項」に記載されている「重要なヘッジ会計の方法」をご覧ください。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

「デリバティブ取引関係」注記におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（（注2）を参照ください。）。

前連結会計年度（平成23年3月31日）

（単位：百万円）

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	1,612	1,612	
(2) 受取手形及び売掛金	5,085		
貸倒引当金(1)	292		
	4,793	4,793	
(3) 投資有価証券(2)			
その他有価証券	691	691	
(4) 破産更生債権等	264		
貸倒引当金(1)	264		
(5) 敷金及び保証金	1,284	1,178	106
資産計	8,382	8,275	106
(1) 支払手形及び買掛金	4,293	4,293	
(2) 短期借入金	6,721	6,721	
(3) 未払金(3)	70	70	
(4) 長期借入金	1,670	1,662	8
(5) 長期未払金(4)	1,129	1,049	79
負債計	13,885	13,797	88
デリバティブ取引(4)	182	182	

(1) 受取手形及び売掛金、破産更生債権等に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

なお、連結貸借対照表上では、流動資産と固定資産とに分別されております。

(2) 投資有価証券には、関係会社株式を含めておりません。

(3) 連結貸借対照表上では、流動負債の「その他」に含まれており、割賦払分は含めておりません。

(4) 連結貸借対照表上では、固定負債の「その他」に含まれており、割賦払分は含めておりません。

当連結会計年度(平成24年3月31日)

(単位:百万円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	3,465	3,465	
(2) 受取手形及び売掛金	6,210		
貸倒引当金(1)	324		
	5,885	5,885	
(3) 投資有価証券(2)			
その他有価証券	835	835	
(4) 破産更生債権等	233		
貸倒引当金(1)	233		
(5) 敷金及び保証金	1,239	1,169	70
資産計	11,426	11,355	70
(1) 支払手形及び買掛金	4,415	4,415	
(2) 短期借入金	5,427	5,427	
(3) 未払金(3)	141	141	
(4) 長期借入金	1,470	1,464	5
(5) 長期未払金(4)	988	926	61
負債計	12,442	12,375	67
デリバティブ取引(4)	95	95	

(1) 受取手形及び売掛金、破産更生債権等に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

なお、連結貸借対照表上では、流動資産と固定資産とに分別されております。

(2) 投資有価証券には、関係会社株式を含めておりません。

(3) 連結貸借対照表上では、流動負債の「その他」に含まれており、割賦払分は含めておりません。

(4) 連結貸借対照表上では、固定負債の「その他」に含まれており、割賦払分は含めておりません。

(注1)金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金

預金はすべて短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

また、有価証券は其他有価証券として保有しており、有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

(4) 破産更生債権等

これらの時価については、担保及び保証を考慮し、個別に信用リスクを見積もった回収見込額等により、算定しております。

(5) 敷金及び保証金

店舗賃借時に差入れている敷金・保証金であり、これらの時価については、想定される賃借資産の使用期間を見積り、安全性の高い長期の債権の利回りで割り引いた現在価値を算出しております。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金並びに (3) 未払金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 長期借入金及び (5) 長期未払金

これらの時価については、元利金の合計額を、新規に同様の借入等を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

なお、変動金利による長期借入金は金利スワップ特例処理の対象とされており、当該金利スワップを加味して算定する方法によっております。

デリバティブ取引

「デリバティブ取引関係」注記を参照ください。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(1) 投資有価証券

(単位：百万円)

区分	平成23年3月31日	平成24年3月31日
非上場株式	10	12

上記については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

(2) 敷金及び保証金

(単位：百万円)

区分	平成23年3月31日	平成24年3月31日
事務所等の敷金及び保証金	1,610	185

上記については、事務所等の使用期間が明確ではなく、将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(5) 敷金及び保証金」には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成23年3月31日)

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	1,612			
受取手形及び売掛金	5,085			
合計	6,698			

「破産更生債権等」、「敷金及び保証金」については、償還予定額に不確実性が存在するため、記載を省略しております。

なお、「投資有価証券」については、満期がある有価証券がないため該当事項はありません。

当連結会計年度(平成24年3月31日)

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	3,465			
受取手形及び売掛金	6,210			
合計	9,675			

「破産更生債権等」、「敷金及び保証金」については、償還予定額に不確実性が存在するため、記載を省略しております。

なお、「投資有価証券」については、満期がある有価証券がないため該当事項はありません。

(注4) 長期借入金及び長期未払金の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成23年3月31日)

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
長期借入金	936	656	468	238	187	120
長期未払金	70	141	141	141	141	564
合計	1,006	797	609	379	328	684

上記には、1年内返済予定の長期借入金及び長期未払金を含んでおります。

「長期未払金」については、割賦払分を含めておりません。

当連結会計年度(平成24年3月31日)

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
長期借入金	612	476	286	335	372	
長期未払金	141	141	141	141	141	423
合計	753	617	427	476	513	423

上記には、1年内返済予定の長期借入金及び長期未払金を含んでおります。

「長期未払金」については、割賦払分を含めておりません。

(有価証券関係)

前連結会計年度

1 その他有価証券 (平成23年3月31日)

(単位：百万円)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	144	90	53
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	547	783	235
合計	691	873	181

2 減損処理を行った有価証券 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。なお、当連結会計年度において減損処理を行い、投資有価証券評価損 155百万円を計上しております。

株式の減損にあたっては、当連結会計年度末における時価が、取得原価に比べ 50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には回復可能性等を考慮して、必要と認められた額について減損処理を行うこととしております。

3 当連結会計年度中に売却したその他有価証券 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

区分	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	72	0	8

当連結会計年度

1 その他有価証券（平成24年3月31日）

（単位：百万円）

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの 株式	422	299	123
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの 株式	412	438	26
合計	835	738	97

2 減損処理を行った有価証券（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。なお、当連結会計年度において減損処理を行い、投資有価証券評価損 154百万円を計上しております。

株式の減損にあたっては、当連結会計年度末における時価が、取得原価に比べ 50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には回復可能性等を考慮して、必要と認められた額について減損処理を行うこととしております。

3 当連結会計年度中に売却したその他有価証券（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

区分	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	0		0

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

通貨関連

(単位:百万円)

	種類	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価	評価損益
市場取引以外の取引	クーポンスワップ取引 買建				
	米ドル	1,263	677	182	182
	合計	1,263	677	182	182

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

金利関連

(単位:百万円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額	契約額のうち 1年超	時価
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定	長期借入金	336	100	2

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

通貨関連

(単位:百万円)

	種類	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価	評価損益
市場取引以外の取引	クーポンスワップ取引 買建				
	米ドル	677	166	95	95
	合計	677	166	95	95

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

金利関連

(単位:百万円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額	契約額のうち 1年超	時価
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定	長期借入金	100		0

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付企業年金法の施行に伴い、平成21年7月1日付けで退職給付制度を改定して、適格退職年金制度から規約型確定給付年金制度へ移行し、「退職給付制度間の移行等に関する会計処理」(企業会計基準適用指針第1号)を適用しております。

連結子会社は、確定給付型の制度として退職一時金制度、また、一部の連結子会社は、確定拠出型の制度として中小企業退職金共済制度に加入しております。

なお、当社及び連結子会社は、従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合があります。

2 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
退職給付債務	4,504百万円	4,473百万円
(内訳)		
未認識数理計算上の差異	64百万円	118百万円
年金資産	1,050百万円	1,082百万円
退職給付引当金	3,518百万円	3,272百万円

(注) 連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

3 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
勤務費用	218百万円	200百万円
利息費用	64百万円	65百万円
期待運用収益	8百万円	8百万円
数理計算上の差異の費用処理額	51百万円	34百万円
退職給付費用(+ + +)	223百万円	222百万円

(注) 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、勤務費用に計上しております。

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1)退職給付見込額の期間配分方法

期間定額基準

(2) 割引率

前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
1.9%	1.275%

(3) 期待運用収益率

前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
1.0%	1.0%

(4) 数理計算上の差異の処理年数

3年間の定率法により翌連結会計年度より費用処理

(ストック・オプション等関係)

1 費用計上額及び科目名

	前連結会計年度	当連結会計年度
販売費及び一般管理費(株式報酬費用)	8百万円	8百万円

2 スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

会社名	提出会社
決議年月日	平成22年1月29日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役(社外取締役を除く)7名
株式の種類及び付与数(株)	普通株式 73,641
付与日	平成22年2月16日
権利確定条件	権利確定条件の定めはない。
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはない。
権利行使期間	平成22年2月16日～平成52年2月15日

会社名	提出会社
決議年月日	平成23年1月31日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役(社外取締役を除く)7名
株式の種類及び付与数(株)	普通株式 60,868
付与日	平成23年2月17日
権利確定条件	権利確定条件の定めはない。
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはない。
権利行使期間	平成23年2月17日～平成53年2月16日

会社名	提出会社
決議年月日	平成24年1月31日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役(社外取締役を除く)7名
株式の種類及び付与数(株)	普通株式 46,406
付与日	平成24年2月17日
権利確定条件	権利確定条件の定めはない。
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはない。
権利行使期間	平成24年2月17日～平成54年2月16日

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

ストック・オプションの数

会社名	提出会社	提出会社	提出会社
決議年月日	平成22年 1 月29日	平成23年 1 月31日	平成24年 1 月31日
権利確定前			
前連結会計年度末(株)			
付与(株)			46,406
失効(株)			
権利確定(株)			46,406
未確定残(株)			
権利確定後			
前連結会計年度末(株)	73,641	60,868	
権利確定(株)			46,406
権利行使(株)	27,131		
失効(株)			
未行使残(株)	46,510	60,868	46,406

単価情報

会社名	提出会社	提出会社	提出会社
決議年月日	平成22年 1 月29日	平成23年 1 月31日	平成24年 1 月31日
権利行使価格(円)	1	1	1
行使時平均株価(円)	127		
付与日における公正な評価単価(円)	129	138	181

3 当連結会計年度に付与されたストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

(1) 使用した算定技法

ブラック・ショールズ式

(2) 使用した主な基礎数値及びその見積方法

株価変動性 29.78%

平成17年 2 月18日 ~ 平成24年 2 月17日の株価実績に基づき算定

予想残存期間 7 年

付与日から権利行使されると見込まれる平均的な時期までの期間を使用しております。

予想配当利回り 0.401%

7 年間 (平成17年 3 月期期末配当から平成23年 3 月期期末配当まで) の配当実績を、7 年間 (平成17年 2 月18日から平成24年 2 月17日まで) の平均株価で除した値により見積もっております。

無リスク利率 0.528%

残存年数が予想残存期間に対応する国債の利回りであります。

4 ストック・オプションの権利確定数の見積方法

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
(繰延税金資産)		
貸倒引当金	219百万円	194百万円
退職給付引当金	1,400百万円	1,145百万円
未払役員退職慰労金	28百万円	13百万円
賞与引当金	124百万円	174百万円
税務上の繰越欠損金	986百万円	86百万円
未実現利益	291百万円	274百万円
ポイント引当金	183百万円	166百万円
商品及び製品評価損	133百万円	229百万円
資産除去債務	74百万円	66百万円
固定資産減損損失	56百万円	40百万円
移転関連損失引当金	97百万円	77百万円
その他有価証券評価差額金	84百万円	
その他	69百万円	33百万円
繰延税金資産小計	3,748百万円	2,501百万円
評価性引当額	1,904百万円	988百万円
繰延税金資産合計	1,844百万円	1,513百万円
(繰延税金負債)		
固定資産過大計上額	8百万円	6百万円
その他有価証券評価差額金		34百万円
その他	3百万円	5百万円
繰延税金負債合計	12百万円	46百万円
差引：繰延税金資産の純額	1,831百万円	1,467百万円

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	310百万円	338百万円
固定資産 - 繰延税金資産	1,530 "	1,145 "
固定負債 - 繰延税金負債	9 "	17 "

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率 (調整)	40.0%	40.0%
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.2%	0.2%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	1.2%	0.6%
住民税均等割等	7.7%	1.9%
受取配当金相殺消去	0.5%	0.4%
持分法適用に伴う影響額	8.0%	3.7%
事業税	0.3%	0.2%
評価性引当額の増減	9.3%	24.6%
在外子会社の税率差異	1.9%	0.7%
その他	0.4%	1.3%
税率変更による期末繰延税金資産 の減額修正		7.2%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	28.9%	21.2%

3 法定実効税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律及び東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法が平成23年12月2日に公布されたことに伴い、当連結会計年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算（ただし、平成24年4月1日以降解消されるものに限る）に使用した法定実効税率は、前連結会計年度の40%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成24年4月1日から平成27年3月31日までのものは38%、平成27年4月1日以降のものについては35%にそれぞれ変更しております。

その結果、繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）が178百万円、再評価に係る繰延税金負債が38百万円、それぞれ減少し、当連結会計年度に計上された法人税等調整額が178百万円増加しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

1 資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

店舗の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から8年と見積り、割引率は1.08%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

(3) 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
期首残高	196百万円	186百万円
有形固定資産の取得に伴う増加額	7 "	9 "
時の経過による調整額	0 "	1 "
資産除去債務の履行による減少額	17 "	4 "
店舗閉鎖損失引当金への振替額		4 "
期末残高	186百万円	187百万円

2 連結貸借対照表に計上しているもの以外の資産除去債務

(1) 当該資産除去債務の金額を連結貸借対照表に計上していない旨

連結子会社の一部が使用している事務所に関する建物及び構築物に係る資産除去債務は連結貸借対照表に計上しておりません。

(2) 当該資産除去債務の金額を連結貸借対照表に計上していない理由

賃貸借契約を結んでいる事務所

連結子会社の一部が使用している事務所については、不動産賃貸借契約により、事業終了時または退去時における原状回復費用等に係る債務を有しておりますが、当該債務に関する賃借資産の使用期間が明確ではなく、現在のところ移転等も予定されていないことから資産除去債務を合理的に見積ることができません。そのため、当該資産に見合う資産除去債務を計上しておりません。

(3) 当該資産除去債務の概要

事務所の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

(賃貸等不動産関係)

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

当連結会計年度において、重要な賃貸等不動産はありません。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

当連結会計年度において、重要な賃貸等不動産はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、内部管理上採用している区分に基づき、販売方法の類似性を考慮し、「靴小売事業」、「靴卸売事業」の2つを報告セグメントとしております。

靴小売事業・・・ 直営店における靴関連の小売販売、インターネットにおける靴関連の小売販売、
「リーガルシューズ」フランチャイズ店からのロイヤリティ収入

靴卸売事業・・・ 各種靴の専門店及び百貨店等への靴関連の卸売販売

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	靴小売事業	靴卸売事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	15,656	17,311	32,967	147	33,114
セグメント間の内部 売上高又は振替高				188	188
計	15,656	17,311	32,967	335	33,302
セグメント利益	485	728	1,214	135	1,078
セグメント資産	5,842	8,302	14,144		14,144
その他の項目					
減価償却費	296	79	375		375
有形固定資産の増加額	106	4	110		110

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸等の事業を含んでおりません。

当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	靴小売事業	靴卸売事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	17,060	17,912	34,973	198	35,171
セグメント間の内部 売上高又は振替高				158	158
計	17,060	17,912	34,973	356	35,330
セグメント利益	1,238	1,119	2,357	88	2,446
セグメント資産	6,451	8,979	15,431		15,431
その他の項目					
減価償却費	233	92	326		326
有形固定資産の増加額	120	4	125		125

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸等の事業を含んでおりません。

4 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：百万円)

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	32,967	34,973
「その他」の区分の売上高	335	356
セグメント間取引消去	188	158
連結財務諸表の売上高	33,114	35,171

(単位：百万円)

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	1,214	2,357
「その他」の区分の利益又は損失()	135	88
セグメント間取引消去	87	13
連結財務諸表の営業利益	1,166	2,433

(単位：百万円)

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	14,144	15,431
全社資産(注)	14,313	14,341
連結財務諸表の資産合計	28,458	29,772

(注) 全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない本社資産等であります。

(単位：百万円)

その他の項目	報告セグメント計		調整額		連結財務諸表計上額	
	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度
減価償却費(注) 1	375	326	8	9	383	335
有形固定資産の増加額(注) 2	110	125	1,105	75	1,216	201

(注) 1 減価償却費の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社の減価償却費であります。

2 前連結会計年度における有形固定資産の増加額の調整額は、本社移転に伴う新社屋の設備投資額等であり、当連結会計年度における有形固定資産の増加額の調整額は、本社の複合機一式等リース資産の取得分などであります。

【関連情報】

前連結会計年度（自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日）

1 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービス区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	中国及び香港	合計
4,869	56	4,925

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度（自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日）

1 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービス区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	中国及び香港	合計
4,669	72	4,741

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	全社・消去	合計
	靴小売事業	靴卸売事業	計			
減損損失	126		126			126

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	全社・消去	合計
	靴小売事業	靴卸売事業	計			
減損損失	13		13			13

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	全社(注)・消去	合計
	靴小売事業	靴卸売事業	計			
当期償却額	27		27			27
当期末残高	75		75		1	77

(注) 「全社」の金額は、報告セグメントに帰属しないものであります。

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	全社(注)・消去	合計
	靴小売事業	靴卸売事業	計			
当期償却額	34		34			34
当期末残高	48		48			48

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等に限る）等

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
主要 株主	㈱ニッピ	東京都 足立区	3,500	コラーゲン・ ケーシング、 ゼラチン関連、 化粧品関連、 皮革関連、 その他事業	(所有) 直接 23.5 (被所有) 直接 23.0 間接 1.2	商品の仕入 役員の兼任	商品の仕入	902	買掛金	108
									支払手形	302
							土地の賃借	93	敷金及び 保証金	1,575
							保証金金利	31	預り金	2
							長期前渡金金 利	1	投資その他 の資産 その他	70
							材料の売上	46		
	受取配当金	19								

(注) 1 記載金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2 取引条件及び取引条件の決定方針等

(1) 商品の仕入については、㈱ニッピより提示された価格により、市場の実勢価格を参考にして、その都度交渉の上決定しております。

(2) 材料の売上については、当社の提示した価格を㈱ニッピが市場の実勢価格と比較して、その都度交渉の上決定しております。

3 土地の賃借については、近隣の相場をもとに交渉の上決定しております。

4 敷金及び保証金については、売却した土地の明け渡しを担保する目的で差し入れた保証金であります。

5 保証金金利及び長期前渡金金利については、市場金利を勘案して決定しております。

当連結会計年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
主要 株主	(株)ニッピ	東京都 足立区	3,500	コラーゲン・ ケーシング、 ゼラチン関連、 化粧品関連、 皮革関連、 その他事業	(所有) 直接 23.5 (被所有) 直接 23.0 間接 1.2	商品の仕入 役員の兼任	商品の仕入	1,039	買掛金	126
									支払手形	349
							保証金金利	7		
							材料の売上	55		
							受取配当金	19		
							長期前渡金 金利	0		
				敷金及び 保証金	150					

(注) 1 記載金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2 取引条件及び取引条件の決定方針等

(1) 商品の仕入については、(株)ニッピより提示された価格により、市場の実勢価格を参考にして、その都度交渉の上決定しております。

(2) 材料の売上については、当社の提示した価格を(株)ニッピが市場の実勢価格と比較して、その都度交渉の上決定しております。

3 保証金金利及び長期前渡金金利については、市場金利を勘案して決定しております。

4 敷金及び保証金については、売却した本社土地の瑕疵担保責任負担を担保する目的の保証金であります。

(イ) 連結財務諸表提出会社の子会社及び関連会社等

前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
関連 会社	大鳳商事(株)	東京都 中央区	90	商社	(所有) 直接 20.0	材料及び 商品の仕入 役員の兼任	材料及び 商品の仕入	1,514	買掛金	691
							梱包材料 仕入等	87	未払費用	54
							受取配当金	3		
関連 会社	東立製靴(株)	千葉県 柏市	10	靴関連	(所有) 直接 33.0	商品の仕入 及び 材料の売上 役員の兼任	商品の仕入	694	買掛金	199
							外注加工料	0		
							材料の売上	153		

(注) 1 記載金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2 取引条件及び取引条件の決定方針等

(1) 材料及び商品の仕入並びに外注加工料の支払については、関連会社より提示された価格により、市場の実勢価格を参考にして、その都度交渉の上決定しております。

(2) 材料の売上については、当社の提示した価格を関連会社が市場の実勢価格と比較して、その都度交渉の上決定しております。

当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
関連 会社	大鳳商事(株)	東京都 中央区	90	商社	(所有) 直接 20.0	材料及び 商品の仕入 役員の兼任	材料及び 商品の仕入	1,487	買掛金	502
							梱包材料 仕入等	89	未払費用	55
							受取配当金	1		
関連 会社	東立製靴(株)	千葉県 柏市	10	靴関連	(所有) 直接 33.0	商品の仕入 及び 材料の売上 役員の兼任	商品の仕入	671	買掛金	205
							外注加工料	1		
							材料の売上	168		

(注) 1 記載金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2 取引条件及び取引条件の決定方針等

(1) 材料及び商品の仕入並びに外注加工料の支払については、関連会社より提示された価格により、市場の実勢価格を参考にして、その都度交渉の上決定しております。

(2) 材料の売上については、当社の提示した価格を関連会社が市場の実勢価格と比較して、その都度交渉の上決定しております。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

連結財務諸表提出会社の子会社及び関連会社等

連結財務諸表提出会社の連結子会社の名称

(株)ニッカエンタープライズ

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
関連 会社	東立製靴(株)	千葉県 柏市	10	靴関連	(所有) 直接 33.0	商品の仕入	商品の仕入	182	買掛金	6
							建物の賃借	6		

(注) 1 記載金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2 取引条件及び取引条件の決定方針等

商品の仕入については、東立製靴(株)より提示された価格により、市場の実勢価格を参考にして、その都度交渉の上決定しております。

3 議決権等の所有割合については、連結財務諸表提出会社の所有分であり、(株)ニッカエンタープライズは所有していません。

当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

連結財務諸表提出会社の子会社及び関連会社等

連結財務諸表提出会社の連結子会社の名称

(株)ニッカエンタープライズ

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
関連 会社	東立製靴(株)	千葉県 柏市	10	靴関連	(所有) 直接 33.0	商品の仕入	商品の仕入	196	買掛金	7
							建物の賃借	6		

(注) 1 記載金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2 取引条件及び取引条件の決定方針等

商品の仕入については、東立製靴(株)より提示された価格により、市場の実勢価格を参考にして、その都度交渉の上決定しております。

3 議決権等の所有割合については、連結財務諸表提出会社の所有分であり、(株)ニッカエンタープライズは所有していません。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

該当事項はありません。

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

当連結会計年度において、重要な関連会社は(株)ニッピであり、その要約財務情報は以下のとおりであります。

(株)ニッピ	(単位：百万円)	
	前連結会計年度	当連結会計年度
流動資産合計	9,880	10,502
固定資産合計	42,750	43,325
繰延資産合計	33	42
流動負債合計	15,830	16,044
固定負債合計	22,654	22,012
純資産合計	14,179	15,813
売上高	24,360	25,416
税引前当期純利益	830	1,058
当期純利益	510	1,025

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1株当たり純資産額	247.68円	328.01円
1株当たり当期純利益金額	14.71円	65.28円
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	14.68円	65.04円

(注) 1. 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(百万円)	439	1,951
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る当期純利益(百万円)	439	1,951
普通株式の期中平均株式数(株)	29,867,575	29,899,030
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
当期純利益調整額(百万円)		
普通株式増加数(株)	59,966	112,198
(うち新株予約権)(株)	(59,966)	(112,198)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含まれなかった潜在株式の概要		

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	7,464	9,873
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円)		
(うち新株予約権)	(14)	(22)
(うち少数株主持分)	(42)	(47)
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	7,406	9,802
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	29,904,747	29,886,482

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	5,785	4,815	1.47	
1年以内に返済予定の長期借入金	936	612	1.77	
1年以内に返済予定のリース債務	6	14		
その他有利子負債（1年以内に返済予定の未払金）	75	145	1.1	
長期借入金（1年以内に返済予定のものを除く。）	1,670	1,470	1.77	平成25年4月25日～ 平成29年2月28日
リース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）	21	41		平成25年4月10日～ 平成29年2月26日
その他有利子負債（長期未払金） （1年以内に返済予定のものを除く。）	1,145	999	1.1	平成25年4月10日～ 平成32年3月17日
その他有利子負債（従業員預り金）	250	258	0.5	
合計	9,891	8,357		

(注) 1 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

なお、リース債務については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、「平均利率」を記載しておりません。

2 長期借入金、リース債務及びその他有利子負債（長期未払金）（1年以内に返済予定のものを除く。）の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	476	286	335	372
リース債務	13	13	8	3
その他有利子負債 （長期未払金）	146	146	142	141

【資産除去債務明細表】

「資産除去債務関係」注記において記載しておりますので、省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	7,875	16,211	25,797	35,171
税金等調整前四半期 (当期)純利益金額 (百万円)	444	661	1,788	2,489
四半期(当期)純利益 金額 (百万円)	240	459	1,480	1,951
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	8.04	15.35	49.50	65.28

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり 四半期純利益金額 (円)	8.04	7.31	34.16	15.78

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,182	2,725
受取手形	2 636	2, 7 1,037
売掛金	2 5,886	2 6,376
商品及び製品	5,175	5,076
仕掛品	16	18
原材料及び貯蔵品	189	179
前渡金	244	243
前払費用	73	66
繰延税金資産	302	326
関係会社短期貸付金	160	142
その他	5 192	5 184
貸倒引当金	1,116	970
流動資産合計	12,943	15,406
固定資産		
有形固定資産		
建物	1 2,690	1 2,709
減価償却累計額	916	1,047
減損損失累計額	40	52
建物（純額）	1,734	1,609
構築物	1 98	1 86
減価償却累計額	54	51
減損損失累計額	0	0
構築物（純額）	44	34
機械及び装置	1 733	1 746
減価償却累計額	713	723
機械及び装置（純額）	19	22
車両運搬具	9	9
減価償却累計額	9	9
車両運搬具（純額）	0	0
工具、器具及び備品	463	473
減価償却累計額	342	376
減損損失累計額	16	18
工具、器具及び備品（純額）	104	78
土地	1, 4 2,250	1, 4 2,250
リース資産	79	113
減価償却累計額	8	26
リース資産（純額）	70	87
有形固定資産合計	4,223	4,082
無形固定資産		
電話加入権	21	21
ソフトウェア	34	23
その他	1	1
無形固定資産合計	57	47

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	1 586	1 679
関係会社株式	1 1,453	1 1,453
出資金	15	15
関係会社出資金	403	543
長期貸付金	14	14
従業員に対する長期貸付金	18	25
関係会社長期貸付金	5,391	3,981
破産更生債権等	8	8
長期前払費用	15	11
保険積立金	227	218
敷金及び保証金	2 1,809	2 368
繰延税金資産	1,284	951
その他	335	235
投資損失引当金	823	869
貸倒引当金	2,933	1,781
投資その他の資産合計	7,808	5,854
固定資産合計	12,089	9,983
資産合計	25,032	25,390
負債の部		
流動負債		
支払手形	2 1,140	2 1,338
買掛金	2 3,119	2 3,024
短期借入金	1, 6 5,785	1, 6 4,815
関係会社短期借入金	31	58
1年内返済予定の長期借入金	1 936	1 612
リース債務	6	14
未払金	1 99	1 165
未払法人税等	43	46
未払消費税等	-	111
未払費用	696	792
預り金	5 77	5 87
従業員預り金	295	300
賞与引当金	116	162
役員賞与引当金	-	17
ポイント引当金	-	12
移転関連損失引当金	243	-
災害損失引当金	36	-
その他	-	8
流動負債合計	12,629	11,567
固定負債		
長期借入金	1 1,670	1 1,470
リース債務	21	40
長期未払金	1 1,216	1 1,037
退職給付引当金	2,624	2,483

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
移転関連損失引当金	-	221
資産除去債務	16	19
再評価に係る繰延税金負債	4 309	4 271
その他	240	161
固定負債合計	6,100	5,706
負債合計	18,729	17,273
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,355	5,355
資本剰余金		
資本準備金	662	662
資本剰余金合計	662	662
利益剰余金		
利益準備金	16	16
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	192	1,740
利益剰余金合計	208	1,756
自己株式	177	178
株主資本合計	6,048	7,595
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	175	43
土地再評価差額金	4 416	4 454
評価・換算差額等合計	241	498
新株予約権	14	22
純資産合計	6,303	8,116
負債純資産合計	25,032	25,390

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
売上高		
製品売上高	3 8,371	3 8,752
商品売上高	3 21,170	3 22,830
その他の売上高	3 667	3 393
売上高合計	30,209	31,976
売上原価		
製品期首たな卸高	1,781	1,573
当期製品製造原価	5,305	5,665
合計	7,086	7,239
製品期末たな卸高	1,573	1,694
製品売上原価	1 5,512	1 5,545
商品期首たな卸高	3,586	3,601
当期商品仕入高	13,432	13,994
合計	17,018	17,595
商品期末たな卸高	3,601	3,381
商品他勘定振替高	58	23
商品売上原価	1 13,359	1 14,189
その他の原価	272	-
売上原価合計	19,144	19,735
売上総利益	11,065	12,241
販売費及び一般管理費		
荷造運搬費	312	317
販売手数料	3 5,657	3 6,145
広告宣伝費	404	381
ロイヤリティ	311	293
役員報酬	99	109
株式報酬費用	8	8
給料	1,599	1,505
賞与及び手当	43	106
賞与引当金繰入額	108	151
役員賞与引当金繰入額	-	17
退職給付費用	79	87
法定福利費	277	292
福利厚生費	10	10
賃借料	261	157
保険料	9	7
修繕費	45	45
租税公課	64	65
旅費及び交通費	161	139
交際費	11	8
減価償却費	185	190
事務費	70	44
業務委託費	161	157
通信費	41	34
保管費	117	121

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
教育研修費	25	15
研究開発費	7 39	7 52
貸倒引当金繰入額	26	-
雑費	129	130
他勘定振替高	2 119	2 122
販売費及び一般管理費合計	10,141	10,476
営業利益	923	1,765
営業外収益		
受取利息	3 51	3 25
受取配当金	3 52	3 65
物品売却益	37	29
デリバティブ評価益	-	86
貸倒引当金戻入額	-	248
雑収入	44	49
営業外収益合計	186	504
営業外費用		
支払利息	164	125
手形売却損	1	-
デリバティブ評価損	80	-
売上割引	35	29
不動産賃貸費用	62	-
雑支出	46	30
営業外費用合計	390	185
経常利益	719	2,084
特別利益		
店舗閉鎖損失引当金戻入額	2	-
固定資産売却益	-	0
その他	0	-
特別利益合計	2	0
特別損失		
貸倒引当金繰入額	4 218	4 0
投資損失引当金繰入額	4 57	4 45
固定資産除却損	5 7	5 3
会員権評価損	2	-
投資有価証券売却損	8	0
投資有価証券評価損	155	154
関係会社整理損	-	2
減損損失	6 56	6 10
災害による損失	104	1
特別損失合計	611	218
税引前当期純利益	110	1,865
法人税、住民税及び事業税	32	32
法人税等調整額	15	285
法人税等合計	48	317
当期純利益	61	1,548

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)		当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
材料費	1	2,854	53.7	3,199	56.4
労務費		161	3.0	169	3.0
外注加工費	1,2	2,145	40.4	2,141	37.8
その他の経費	3	150	2.8	160	2.8
当期総製造費用		5,311	100.0	5,671	100.0
仕掛品期首たな卸高		9		16	
合計		5,321		5,688	
仕掛品期末たな卸高		16		18	
他勘定振替高		0		4	
当期製品製造原価		5,305		5,665	

(注) 1 子会社に対する外注加工は材料を有償支給する方法であります。
製造原価明細書上は納入された金額を材料費部分と外注加工費部分に分解して表示しております。

2 外注加工費のうち、関係会社に対するものは、次のとおりであります。

前事業年度(百万円)	当事業年度(百万円)
2,113	2,079

3 主な内訳は、次のとおりであります。

項目	前事業年度(百万円)	当事業年度(百万円)
消耗品費	33	40
荷造運搬費	25	31
試験研究費	38	38
減価償却費	4	6

(原価計算の方法)

当社の原価計算は、組別総合原価計算を採用しております。

【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	5,355	5,355
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	5,355	5,355
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	662	662
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	662	662
資本剰余金合計		
当期首残高	662	662
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	662	662
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	16	16
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	16	16
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金		
当期首残高	132	192
当期変動額		
当期純利益	61	1,548
自己株式の処分	1	-
当期変動額合計	59	1,548
当期末残高	192	1,740
利益剰余金合計		
当期首残高	148	208
当期変動額		
当期純利益	61	1,548
自己株式の処分	1	-
当期変動額合計	59	1,548
当期末残高	208	1,756
自己株式		
当期首残高	183	177
当期変動額		
自己株式の取得	0	0
自己株式の処分	5	-
当期変動額合計	5	0
当期末残高	177	178

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
株主資本合計		
当期首残高	5,983	6,048
当期変動額		
当期純利益	61	1,548
自己株式の取得	0	0
自己株式の処分	3	-
当期変動額合計	64	1,547
当期末残高	6,048	7,595
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	187	175
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	12	218
当期変動額合計	12	218
当期末残高	175	43
土地再評価差額金		
当期首残高	416	416
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	-	38
当期変動額合計	-	38
当期末残高	416	454
評価・換算差額等合計		
当期首残高	228	241
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	12	257
当期変動額合計	12	257
当期末残高	241	498
新株予約権		
当期首残高	9	14
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	4	8
当期変動額合計	4	8
当期末残高	14	22
純資産合計		
当期首残高	6,221	6,303
当期変動額		
当期純利益	61	1,548
自己株式の取得	0	0
自己株式の処分	3	-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	17	265
当期変動額合計	82	1,813
当期末残高	6,303	8,116

【重要な会計方針】

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

2 デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

時価法

3 たな卸資産の評価基準及び評価方法

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

(1) 商品及び製品

総平均法に基づく原価法

(2) 仕掛品

総平均法に基づく原価法

(3) 原材料及び貯蔵品

移動平均法に基づく原価法

4 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法によっております。

ただし、平成10年4月以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については定額法を採用しております。

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

なお、自社利用ソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロ（ただし、残価保証の取り決めがある場合は当該保証額）とする定額法によっております。

(4) 長期前払費用

均等償却によっております。

5 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、回収不能見込額を計上しております。

一般債権

貸倒実績率法により計上しております。

貸倒懸念債権及び破産更生債権等

財務内容評価法により計上しております。

(2) 投資損失引当金

財政状態の悪化した子会社及び関連会社への投資に対する損失に備えるため、実質価値の低下の程度並びに将来の回復の見込み等を総合的に勘案して計上しております。

(3) 賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、給与規程に基づき支給見込額のうち当事業年度に負担すべき額を計上しております。

(4) 役員賞与引当金

役員の賞与支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

(5) ポイント引当金

将来のポイントカードの使用による費用発生に備えるため、当事業年度末における将来利用見込額を計上しております。

(6) 退職給付引当金

従業員の退職金支給に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。また、数理計算上の差異については、3年間の定率法により、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

(7) 移転関連損失引当金

旧本社跡地において、将来発生が見込まれる土壌改良費等の損失額について合理的な見積額を計上しております。

6 ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

原則として繰延ヘッジ処理によっております。

また、特例処理の要件を満たしている金利スワップ等については、特例処理によっております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段

デリバティブ取引（為替予約取引、金利スワップ取引等）

ヘッジ対象

相場変動等による損失の可能性がある、相場変動等が評価に反映されないもの及びキャッシュ・フローが固定されその変動が回避されるもの

(3) ヘッジ方針

相場変動等による損失の可能性が極めて高いと判断した場合、及びキャッシュ・フローの固定を必要と判断した場合に取締役会の承認を得てヘッジ目的でデリバティブ取引を行っております。

(4) ヘッジの有効性評価の方法

為替予約取引は元本交換を行わない固定レートによるクーポンスワップによっており、また金利スワップ等は固定金利であり、ヘッジ手段の有効性を定期的に確認しております。

(5) その他リスク管理方法のうちヘッジ会計に係るもの

ヘッジ対象、ヘッジ手段は取締役会で決定され、取締役会での決定事項の実行及び管理は経理部が行っております。管理本部長はヘッジの有効性を判断し、有効性について疑義がある場合は取締役会に報告しております。

7 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜き方式によっております。

【会計方針の変更】

該当事項はありません。

【追加情報】

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

1 このうち一部を工場抵当法による根抵当権を、他の一部に抵当権をそれぞれ設定し、短期借入金、未払金、長期未払金、長期借入金および1年内返済予定の長期借入金の担保に供しております。

(1) 担保差入資産の簿価

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
	(うち工場財団)	
土地	2,212百万円 (255百万円)	2,212百万円 (255百万円)
建物	1,695百万円 (11百万円)	1,582百万円 (12百万円)
構築物	40百万円 (0百万円)	34百万円 (0百万円)
機械及び装置	13百万円 (13百万円)	16百万円 (16百万円)
投資有価証券	377百万円	442百万円
関係会社株式	716百万円	716百万円
計	5,056百万円 (280百万円)	5,004百万円 (283百万円)

(2) 対応する債務の金額

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
短期借入金	4,885百万円	4,181百万円
1年内返済予定の長期借入金	836百万円	512百万円
未払金	70百万円	141百万円
長期借入金	1,570百万円	1,470百万円
長期未払金	1,129百万円	988百万円
計	8,492百万円	7,293百万円

2 関係会社に対する資産及び負債

区分掲記されたもの以外で各科目に含まれているものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
受取手形	585百万円	899百万円
売掛金	5,049百万円	5,185百万円
敷金及び保証金	1,575百万円	150百万円
支払手形	302百万円	349百万円
買掛金	1,004百万円	834百万円

3 受取手形割引高

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
受取手形割引高	326百万円	
(うち、関係会社に係るもの)	288百万円	

4 土地の再評価

当社は、土地の再評価に関する法律（平成10年3月31日公布法律第34号及び平成11年3月31日の同法律の改正）に基づき、事業用の土地の再評価を行い、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

・再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令（平成10年3月31日公布政令第119号）第2条第4号に定める路線価に基づいて、奥行価格補正等の合理的な調整を行って算出したほか、路線価の定められていない地域については同条第3号に定める固定資産税評価額に基づいて、合理的な調整を行って算出しております。

・再評価を行った年月日

平成12年3月31日

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
再評価を行った土地の期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額	321百万円	352百万円

5 資金決済に関する法律に基づき担保に供している資産及び対応する債務

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
(担保に供している資産)		
流動資産その他	43百万円	44百万円
(対応する債務)		
預り金	48百万円	58百万円

- 6 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行10行と当座貸越契約を締結しております。当事業年度末における当座貸越契約に係る借入金未実行残高等は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
当座貸越極度額	5,565百万円	6,365百万円
借入実行残高	3,465 "	2,565 "
差引額	2,100百万円	3,800百万円

- 7 期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当期末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高に含まれております。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
受取手形	-	43百万円

(損益計算書関係)

- 1 商品及び製品は期末たな卸高を原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）により評価減を行った後の金額によって計上しており、評価減は売上原価に算入されております。評価減の金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
商品評価損	292百万円	468百万円
製品評価損	23百万円	118百万円

- 2 他勘定振替高は、子会社に対する事務分担金を子会社に負担させる為、また販売費及び一般管理費中の製造に関する費用を製造経費に振り替える為に使用したものであります。

- 3 各科目に含まれている関係会社に対するものは次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
売上高	20,191百万円	21,197百万円
販売手数料	5,657百万円	6,144百万円
受取利息	36百万円	11百万円
受取配当金	31百万円	46百万円

- 4 主に連結子会社に対するものであります。

- 5 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
建物	5百万円	0百万円
構築物		3百万円
車両運搬具	0百万円	
工具、器具及び備品	1百万円	0百万円
計	7百万円	3百万円

6 減損損失

当社は、以下のとおり減損損失を計上しました。

前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)

(1) 減損損失を認識した資産

(靴小売事業用資産)

用途	種類	場所
店舗設備	建物、構築物並びに 工具、器具及び備品	東京都港区他 8店舗

当社は、キャッシュ・フローを生み出す測定可能な最小単位として、店舗を基本単位とした「靴小売事業用資産」および「各関連事業用資産」としてグルーピングを行っております。

なお、遊休資産については個別物件を基本単位としてグルーピングを行っております。

(2) 減損損失を認識するに至った経緯

「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、収益性の低下が見込まれる一部の固定資産（店舗設備）について、減損損失を計上しました。

(3) 減損損失の金額

建物	40百万円
構築物	0百万円
工具、器具及び備品	16百万円
合計	56百万円

(4) 回収可能価額の算定方法

回収可能価額は使用価値又は正味売却価額のうちいずれか高い方の金額で測定しており、時価は市場価額を基礎として合理的な見積りにより評価しております。

当事業年度（自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日）

(1) 減損損失を認識した資産

(靴小売事業用資産)

用途	種類	場所
店舗設備	建物、構築物並びに 工具、器具及び備品	横浜市中区 1店舗

当社は、キャッシュ・フローを生み出す測定可能な最小単位として、店舗を基本単位とした「靴小売事業用資産」および「各関連事業用資産」としてグルーピングを行っております。

なお、遊休資産については個別物件を基本単位としてグルーピングを行っております。

(2) 減損損失を認識するに至った経緯

「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、収益性の低下が見込まれる一部の固定資産（店舗設備）について、減損損失を計上しました。

(3) 減損損失の金額

建物	8百万円
工具、器具及び備品	1百万円
合計	10百万円

(4) 回収可能価額の算定方法

回収可能価額は使用価値又は正味売却価額のうちいずれか高い方の金額で測定しており、時価は市場価額を基礎として合理的な見積りにより評価しております。なお、売却や他への転用が困難な資産は1円評価としております。

7 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
116百万円	121百万円

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成23年 3 月31日)

自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	905,987	2,055	27,131	880,911

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の買取りによる増加 2,055株

減少数の内訳は、次の通りであります。

ストック・オプションの権利行使による減少 27,131株

当事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)

自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	880,911	1,629		882,540

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の買取りによる増加 1,629株

(リース取引関係)

リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引

(借主側)

リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

前事業年度(平成23年3月31日)

	工具、器具及び備品	その他無形固定資産	合計
取得価額相当額	26百万円	31百万円	58百万円
減価償却累計額相当額	24百万円	30百万円	54百万円
期末残高相当額	2百万円	1百万円	4百万円

当事業年度(平成24年3月31日)

	工具、器具及び備品	その他無形固定資産	合計
取得価額相当額	6百万円	7百万円	13百万円
減価償却累計額相当額	5百万円	6百万円	12百万円
期末残高相当額	0百万円	0百万円	1百万円

未経過リース料期末残高相当額

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
1年以内	3百万円	1百万円
1年超	1百万円	
合計	4百万円	1百万円

支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
支払リース料	13百万円	3百万円
減価償却費相当額	12百万円	2百万円
支払利息相当額	0百万円	0百万円

減価償却費相当額及び支払利息相当額の算定方法

減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

支払利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額の差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

1 ファイナンス・リース取引

(借主側)

(1) リース資産の内容

有形固定資産

主として、浦安本社の電話交換機及び店舗レジシステムのサーバー（工具、器具及び備品）であります。

(2) リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロ（ただし、残価保証の取り決めがある場合は当該保証額）とする定額法によっております。

2 オペレーティング・リース取引

(借主側)

該当事項はありません

(有価証券関係)

前事業年度 (平成23年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式

(単位: 百万円)

区分	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 子会社株式			
(2) 関連会社株式	836	970	133
計	836	970	133

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式

(単位: 百万円)

区分	貸借対照表計上額
(1) 子会社株式	569
(2) 関連会社株式	47
計	616

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「子会社株式及び関連会社株式」には含めておりません。

当事業年度 (平成24年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式

(単位: 百万円)

区分	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 子会社株式			
(2) 関連会社株式	836	1,970	1,134
計	836	1,970	1,134

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式

(単位: 百万円)

区分	貸借対照表計上額
(1) 子会社株式	569
(2) 関連会社株式	47
計	616

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「子会社株式及び関連会社株式」には含めておりません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産および繰延税金負債の発生主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
(繰延税金資産)		
投資有価証券等評価損	885百万円	670百万円
投資損失引当金	329百万円	304百万円
貸倒引当金	1,616百万円	983百万円
棚卸資産評価損	126百万円	222百万円
賞与引当金	46百万円	61百万円
退職給付引当金	1,049百万円	869百万円
未払役員退職慰労金	28百万円	13百万円
移転関連損失引当金	97百万円	77百万円
災害損失引当金	14百万円	
その他有価証券評価差額	70百万円	
税務上の繰越欠損金	230百万円	5百万円
減損損失		24百万円
その他	71百万円	69百万円
繰延税金資産小計	4,566百万円	3,303百万円
評価性引当額	2,980百万円	2,001百万円
繰延税金資産合計	1,586百万円	1,301百万円
(繰延税金負債)		
その他有価証券評価差額		23百万円
その他		0百万円
繰延税金負債合計		23百万円
差引：繰延税金資産の純額	1,586百万円	1,277百万円

(注) 前事業年度及び当事業年度における繰延税金資産の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	302百万円	326百万円
固定資産 - 繰延税金資産	1,284 "	951 "

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率 (調整)	40.0%	40.0%
交際費等永久に損金に算入されない項目	4.1%	0.2%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	5.9%	0.8%
住民税均等割等	29.9%	1.7%
事業税	1.6%	0.0%
子会社株式消却		2.5%
評価性引当額の増減	24.4%	34.6%
その他	1.1%	0.2%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正		8.2%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	44.2%	17.0%

3 法定実効税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律及び東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法が平成23年12月2日に公布されたことに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算（ただし、平成24年4月1日以降解消されるものに限る）に使用した法定実効税率は、前事業年度の40%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成24年4月1日から平成27年3月31日までのものは38%、平成27年4月1日以降のものについては35%にそれぞれ変更しております。

その結果、繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）が153百万円、再評価に係る繰延税金負債が38百万円、それぞれ減少し、当事業年度に計上された法人税等調整額が153百万円増加しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

1 資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

店舗の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から8年と見積り、割引率は1.08%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

(3) 当事業年度における当該資産除去債務の総額の増減

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
期首残高	31百万円	16百万円
有形固定資産の取得に伴う増加額	1 "	
時の経過による調整額	0 "	0百万円
資産除去債務の履行による減少額	16 "	
その他		3百万円
期末残高	16百万円	19百万円

(注) 「その他」は、主に連結子会社からの振替額であります。

2 貸借対照表に計上しているもの以外の資産除去債務

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1株当たり純資産額	198.91円	256.00円
1株当たり当期純利益金額	1.94円	48.96円
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	1.94円	48.79円

(注) 1. 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(百万円)	61	1,548
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る当期純利益(百万円)	61	1,548
普通株式の期中平均株式数(株)	31,611,816	31,618,491
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
当期純利益調整額(百万円)		
普通株式増加数(株)	59,966	112,198
(うち新株予約権)(株)	(59,966)	(112,198)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額の算定に含まれなかった潜在株式の概要		

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	6,303	8,116
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円)		
(うち新株予約権)	(14)	(22)
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	6,289	8,094
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式 の数(株)	31,619,089	31,617,460

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(百万円)
(投資有価証券)		
その他有価証券		
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	485,980	200
(株)みずほフィナンシャルグループ	859,962	116
(株)チヨダ	45,408	75
(株)三越伊勢丹ホールディングス	59,631	57
(株)松屋	46,222	34
(株)丸井グループ	47,870	33
(株)ジーフット	31,000	29
(株)常陽銀行	71,000	26
(株)千葉銀行	50,000	26
J.フロント リテイリング(株)	31,467	14
その他18銘柄	233,741	66
計	1,962,281	679

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首 残高 (百万円)	当期 増加額 (百万円)	当期 減少額 (百万円)	当期末 残高 (百万円)	当期末 減価償却累 計額 又は償却累 計額 (百万円)	当期末 減損損失 累計額 (百万円)	当期 償却額 (百万円)	差引 当期末 残高 (百万円)
有形固定資産								
建物	2,690	36	17	2,709	1,047	52	144 (22)	1,609
構築物	98		12	86	51	0	6	34
機械及び装置	733	13		746	723		10	22
車両運搬具	9		0	9	9		0	0
工具、器具及び備品	463	21	11	473	376	18	36 (4)	78
土地	2,250			2,250				2,250
リース資産	79	34		113	26		17	87
有形固定資産計	6,325	105	41	6,388	2,235	70	214 (27)	4,082
無形固定資産								
電話加入権	21			21				21
ソフトウェア	51			51	27		10	23
その他	1			1				1
無形固定資産計	74			74	27		10	47
長期前払費用	35	23	27	31	13		6	(6) 11

(注) 1 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

建物	解散した連結子会社から引継いだ店舗(3店)	30百万円
機械及び装置	靴製造設備	13百万円
工具、器具及び備品	解散した連結子会社から引継いだ店舗(3店)	11百万円
リース資産	新浦安本社の複合機一式	12百万円

2 当期減少額のうち主なものは、次のとおりであります。

建物	ナチュラルライザー青山店	17百万円
構築物	市ヶ谷屋上看板	12百万円
工具、器具及び備品	ナチュラルライザー青山店	6百万円

3 「当期償却額」欄の()内は内書きで、減損損失(関係会社整理損を含む)の計上額であります。

4 長期前払費用の「差引当期末残高」欄の()内は外書きで、流動資産前払費用への振替額であります。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	4,049	50	1,047	301	2,751
投資損失引当金	823	50		5	869
賞与引当金	116	162	116		162
役員賞与引当金		17			17
ポイント引当金		12			12
災害損失引当金	36		36		
移転関連損失引当金	243		21		221

- (注) 1 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」欄の金額は、洗替及び債権回収などによる戻入額であります。
2 投資損失引当金の「当期減少額(その他)」欄の金額は、子会社の業績回復による戻入額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

資産の部

(a) 現金及び預金

区分	金額(百万円)
現金	22
預金の種類	
普通預金	358
当座預金	2,344
別段預金	0
郵便貯金	0
計	2,703
合計	2,725

(b) 受取手形

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
(株)フィット東日本	570
(株)フィット近畿日本	299
(株)コナカ	109
(株)タップス	29
(株)フタタ	20
その他	8
合計	1,037

(ロ) 期日別内訳

期日別	受取手形(百万円)	割引手形(百万円)
平成24年3月満期	43	
" 4月 "	292	
" 5月 "	301	
" 6月 "	209	
" 7月 "	157	
" 8月 "	29	
" 9月 "	4	
合計	1,037	

(c) 売掛金

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
(株)フィット東日本	1,589
(株)タップス	1,442
(株)フィット近畿日本	1,061
(株)ニッカ	597
上海麗格鞋業有限公司	150
その他	1,534
合計	6,376

(ロ) 売掛金の発生回収状況

期間	当期首残高	当期発生高	当期回収高	当期末残高	回収率(%)	滞留状況(日)
	(A) (百万円)	(B) (百万円)	(C) (百万円)	(D) (百万円)	$\frac{(C)}{(A)+(B)} \times 100$	$\frac{(A)+(D)}{2}$ $\frac{(B)}{366}$
23/4 ~ 24/3	5,886	33,575	33,085	6,376	83.8	66.8

(注) 消費税等の会計処理は、税抜方式を採用しておりますが、上記金額には消費税等が含まれております。

(d) 商品及び製品

区分	金額(百万円)
商品	
紳士靴	2,084
婦人靴	1,163
その他の靴	134
計	3,381
製品	
紳士靴	1,693
婦人靴	0
その他の靴	0
計	1,694
合計	5,076

(e) 仕掛品

区分	金額(百万円)
協力工場未仕掛材料	14
協力工場半製品	4
原価差額	0
合計	18

(f) 原材料及び貯蔵品

区分	金額(百万円)
甲材料	59
底材料	75
副材料	5
フランチャイズ店向備品	39
回数券	0
合計	179

(g) 関係会社株式

銘柄	金額(百万円)
(子会社株式)	
(株)フィット東日本	300
(株)フィット近畿日本	170
加茂製靴(株)	32
(株)日本靴科学研究所	30
その他	36
(関連会社株式)	
(株)ニッピ	836
その他	47
合計	1,453

(h) 関係会社長期貸付金

相手先	金額(百万円)
(株)ニッカ	2,933
東北リーガルシューズ(株)	460
チヨダシューズ(株)	442
加茂製靴(株)	96
(株)ニッカエンタープライズ	36
(株)オンディーン	12
合計	3,981

(i) 敷金及び保証金

区分	金額(百万円)
店舗	183
旧本社土地	150
社宅	22
事務所	9
その他	2
合計	368

負債の部

(a) 支払手形

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
(株)ニッピ	349
(株)エイゾー	226
(株)ニッピ・フジタ	224
新興製靴工業(株)	75
パイロットシューズ(株)	70
その他	392
合計	1,338

(ロ) 期日別内訳

期日別	金額(百万円)
平成24年4月満期	382
" 5月 "	243
" 6月 "	244
" 7月 "	468
合計	1,338

(b) 買掛金

相手先	金額(百万円)
大鳳商事(株)	502
(株)シャミオール	372
クラークスジャパン(株)	282
東立製靴(株)	205
(株)シブヤ製靴	140
その他	1,519
合計	3,024

(c) 短期借入金

相手先	金額(百万円)
(株)みずほコーポレート銀行	1,752
(株)三菱東京UFJ銀行	1,393
みずほ信託銀行(株)	720
(株)りそな銀行	330
(株)千葉銀行	200
(株)常陽銀行	200
(株)三井住友銀行	120
(株)東日本銀行	100
合計	4,815

(d) 1年内返済予定の長期借入金

相手先	金額(百万円)
(株)商工組合中央金庫	216
みずほ信託銀行(株)	144
(株)東京都民銀行	100
(株)三井住友銀行	56
(株)みずほコーポレート銀行	32
(株)三菱東京UFJ銀行	24
(株)千葉銀行	24
(株)東日本銀行	16
合計	612

(e) 長期借入金

相手先	金額(百万円)
(株)商工組合中央金庫	637
(株)三井住友銀行	420
(株)みずほコーポレート銀行	348
みずほ信託銀行(株)	271
(株)三菱東京UFJ銀行	111
(株)千葉銀行	111
(株)東京都民銀行	100
(株)東日本銀行	84
うち1年内返済予定分	612
合計	1,470

(f) 長期未払金

相手先	金額(百万円)
(財)民間都市開発推進機構	1,129
うち1年内返済予定分	141
NECキャピタルソリューション(株)	15
うち1年内返済予定分	4
役員退職慰労金	38
合計	1,037

(g) 退職給付引当金

区分	金額(百万円)
退職給付債務	3,567
未認識数理計算上の差異	118
年金資産	964
合計	2,483

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	無料
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行う。なお、電子公告は、当社のホームページに掲載しており、そのアドレスは次のとおりであります。 (ホームページアドレス http://www.regal.co.jp/bspl/ir_01.html)
株主に対する特典	毎年3月31日現在の株主に対し、優待券を年1回、所有株式数に応じて贈呈しております。

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない旨を定款で定めております。

1. 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
2. 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
3. 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利
4. 株主の有する単元未満株式の数と併せて単元株式数となる数の株式を売り渡すことを請求する権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第179期 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日) 平成23年6月28日関東財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書

事業年度 第179期 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日) 平成23年6月28日関東財務局長に提出。

(3) 四半期報告書及び確認書

第180期第1四半期 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日) 平成23年8月12日関東財務局長に提出。

第180期第2四半期 (自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日) 平成23年11月14日関東財務局長に提出。

第180期第3四半期 (自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日) 平成24年2月14日関東財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2 (株主総会における議決権行使の結果) の規定に基づく臨時報告書

平成23年6月30日関東財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成24年6月20日

株式会社リーガルコーポレーション
取締役会 御中

監査法人

指定社員	公認会計士	古谷 義雄
業務執行社員		
指定社員	公認会計士	角田 浩
業務執行社員		

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社リーガルコーポレーションの平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社リーガルコーポレーション及び連結子会社の平成24年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社リーガルコーポレーションの平成24年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社リーガルコーポレーションが平成24年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
 - 2 連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成24年6月20日

株式会社リーガルコーポレーション
取締役会 御中

監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 古谷 義雄

指定社員
業務執行社員 公認会計士 角田 浩

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社リーガルコーポレーションの平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第180期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社リーガルコーポレーションの平成24年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
- 財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。